

史跡長久手古戦場保存活用計画（古戦場公園）

第 2 回委員会資料

資 料

平成 29 年 3 月 14 日

長 久 手 市

目 次

第1章 計画策定の沿革・目的	1
1 計画策定の沿革	1
2 計画の目的	2
3 計画策定の体制と検討の流れ	3
4 他の計画との関係	5
第2章 史跡長久手古戦場の概要	12
1 史跡長久手古戦場の概要	12
（1）史跡長久手古戦場の歴史	12
（2）史料等で見える古戦場	15
（3）地形図に見られる変遷	24
（4）写真に見られる変遷	30
2 指定に至る経緯	39
3 指定の状況	40
（1）指定告示等	40
（2）指定解説文	43
（3）指定地の状況	45
（4）指定地の現況	48
4 史跡長久手古戦場と周辺環境	73
（1）自然環境	73
（2）社会環境	75
（3）法規制等	80
第3章 史跡長久手古戦場の本質的価値	82
1 史跡長久手古戦場の本質的価値	82
2 史跡長久手古戦場の再評価	83
3 構成要素の特定	84
（1）史跡を構成する要素	85
（2）史跡の周辺環境を構成する要素	95

第4章 現状の課題	97
1 保存、活用の課題の整理	97
(1) 史跡の本質的価値に関する事	97
(2) 保存・活用に関する事	97
(3) 管理上調整が必要な要素に関する事	98
2 整備課題の整理	98
3 運営体制の課題	99
第5章 保存管理の基本方針	100
1 保存管理の基本方針	100
2 保存管理の方法	100
(1) 保存管理の方法	100
(2) 現状変更等の取扱い	101
(3) 追加指定について	106
3 活用の方法	106
(1) まちづくり計画等の中での活用方法	106
(2) 学校教育、社会教育等の中での活用方法	106
4 管理運営の方法	107
第6章 整備活用計画	
1 整備活用の基本方針	
(1) 整備活用の必要性	
(2) 基本方針	
2 具体的方法	
(1) 土地利用計画	
(2) 保存に関する整備	
(3) 活用に関する整備	
第7章 運営・体制の整備	
第8章 今後の展望	
1 実施計画の策定	
2 実施のための方法	

第1章 計画策定の沿革・目的

1 計画策定の沿革

史跡長久手古戦場は、天正12年(1584)4月9日、織田信長亡き後、天下取りを目指す羽柴(のちの豊臣)秀吉と織田信雄・徳川家康が戦った「小牧・長久手の戦い」で最大の戦闘地点となった古戦場跡である。また、秀吉と家康がたった一度直接対決した戦いの主戦場である。この戦いは「長久手合戦」と称されている。

その戦いの様子は、財団法人大山城白帝文庫所蔵の「小牧長久手合戦図屏風」などにも見られ、合戦の激しさ、当時の地形や植物なども詳細に描かれている。

合戦後の江戸時代には、秀吉と家康が戦った天下分け目の重要な合戦場跡として、尾張藩士らの戦墓を集め、合戦場であることを示す碑が建てられている。それが、長久手古戦場に残る「明和の碑」、首塚や色金山に残る「宝永の碑」である。

文献としても「長久手征伐記」(赤林四郎左衛門信卿書 宝永6年(1709)【安昌寺所蔵】)や「遊長湫記」(人見泰・赤林信之文 本田尚漱 明和9年(1772)【安昌寺所蔵】)などに、訪れた当時の古戦場の様子や碑建立に至った動機などが書かれている。

また、明治時代には、勝入塚、庄九郎塚、武蔵塚などに「長久手合戦」で亡くなった武将の戦死地をしめす塚「明治の碑」が各家子孫や地元有志により建てられている。これらの碑や塚は、現在まで地域の人々の手によって守られている。

これらの史実と保存の歴史が、昭和14年(1939)9月7日に史蹟名勝天然記念物保存法第一条により、「長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山」として、国の史蹟指定を受けることとなった。その後長久手村大字長湫字城屋敷九〇番ノ一、九〇番ノ二(現在の血の池公園付近)は、土地開発により著しく改変があったとされ、昭和40年(1965)12月10日付け文化財保護委員会告示第66号により、指定を解除された。

しかし、それ以降は、地元有志等による手厚い管理がされてきたことにより、現在も当時の野戦地の様相を想像できる地形が残されている。

このような中、史跡長久手古戦場を取りまく環境は大きく変化し、周辺の住宅地化や大型商業施設の立地が進み、また、指定地に隣接する古戦場公園においては公園の再整備が検討されるなどしている。

これらの状況から、史跡長久手古戦場の価値を損なうことなく適切に保存し、歴史を活かした観光資源としても活用を図るため、保存活用計画を策定することとなった。

2 計画の目的

史跡長久手古戦場は、秀吉と家康がたった一度直接対決した天下分け目の重要な古戦場として重要な文化遺産である。

また、残された地形や史実を物語る「宝永の碑」、「明和の碑」、「明治の碑」などの遺構、それを大切に保存してきた地域の人たちの歴史がある。

このような史実と保存の歴史を持つ本史跡地を取巻く環境は、周辺の住宅地化や大型商業施設の立地など著しい変化がみられる。

本計画の策定は、史跡長久手古戦場の価値や構成要素を明確にし、将来にわたって良好な状態で確実に保存し、市民をはじめ、誰もが活用しやすい環境に整えることを目的とする。そのための保存と管理、整備や活用に関する基本方針を定めるものである。

今後、本計画に基づき、史跡を保存・活用するため、整備や活用に関する方針についても十分に検討をすることとする。

- 現況を把握し、史跡を適正に保存するための保存管理の方針の明示
- 周辺環境の変化、市の将来像を反映した史跡の整備活用のあり方を検討し、魅力のある歴史遺産としての活用

3 計画策定の体制と検討の流れ

平成 28 年 10 月 1 日に「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」設置要綱を定め、第 1 回「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」を同年 12 月 2 日に開催した。

「史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会」設置要綱及び委員等は次のとおりである。

史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会設置要綱

（設置）

第 1 条 国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の保存活用計画（以下「保存活用計画」という。）を策定するため、史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第 2 条 委員会の所掌事項は、次に掲げるものとする。

- （1）国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の保存に関すること。
- （2）国指定史跡長久手古戦場附 御旗山 首塚 色金山の活用に関すること。
- （3）その他保存活用計画策定に必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員9名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者の中から、市長が委嘱する。

(1) 関係する分野に見識を有する学識経験者

(2) 地元有識者

(3) 地元関係者

(4) その他市長が必要と認める者

3 委員会には、助言者を若干名置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から保存活用計画の策定が終了する日までとする。

2 委員が欠けた場合は、補欠の委員を委嘱することができる。この場合において、補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、総理する。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員の中から委員長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 議長は、委員長とする。

3 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員会に関係者の出席を求め、その意見を聞き、又は説明を求めることができる。

6 委員会の会議は、原則公開とする。ただし、委員長が必要と認めるときは、委員の承諾をもって会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、くらし文化部生涯学習課において総括し、処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか委員会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年10月1日から施行する。

(会議招集の特例)

2 この要綱施行後、最初の委員会招集は、くらし文化部長が行う。

史跡長久手古戦場保存活用計画策定委員会 名簿

選出区分		氏 名	職名等
学識経験者	(大学関係)	せごちてつお 瀬口 哲夫	名古屋市立大学名誉教授
学識経験者	(大学関係)	まるやま ひろむ 丸山 宏	名城大学農学部生活環境科学科教授
学識経験者	(大学関係)	やまむら あき 山村 亜希	京都大学人間科学研究科准教授
学識経験者	(大学関係)	みずたにえいたろう 水谷 栄太郎	愛知淑徳大学教職・司書・学芸員教育センター教授
地元関係者	(観光交流協会)	すずきたかみ 鈴木 孝美	観光交流協会会長
地元関係者	(地元有識者)	たなかよしかず 田中 義和	長久手市文化財保護審議会委員
地元関係者	(地元関係者)	たかのこうじ 高野 晃二	自治会連合会長・区長会長
地元関係者	(地元関係者)	あさ いのぶとし 浅井 延鋭	岩作区会区長
地元関係者	(地元関係者)	かわもと かつお 川本 勝男	景行天皇社・富士社 氏子総代長

オブザーバー	あさのけいすけ 浅野 啓介	文化庁文化財部記念物課史跡部門主任文化財調査官
オブザーバー	まつもと あや 松本 彩	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室

4 他の計画との関係

史跡長久手古戦場を含む周辺地域での上位計画及び関連計画は、以下のとおりである。

① 第5次長久手市総合計画（平成21年3月策定、目標年次：平成30年度）

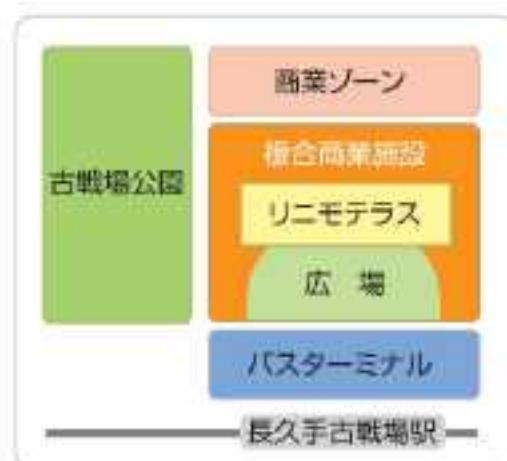
基本方針の中で指定地に隣接する長久手古戦場駅周辺は、商業をはじめとする集客機能や行政機能などを集積し、本市の新たな顔(シンボル・コア)として整備するとされている。

この総合計画は3つの主要プロジェクト計画があり、その一つである「リニモテラス構想」の目標は、“長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リニモテラス」を整備し、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出します。”とあり、長久手古戦場の知名度や歴史性、古戦場公園の立地も生かした整備をするとしている。



土地利用構想図

指定地を示す



「リニモテラス構想」および周辺の立地イメージ

② 長久手市都市計画マスタープラン（平成 22 年 3 月策定、目標年次：平成 30 年度）
総合計画を受け、まちづくりの基本目標が下図のように掲げられている。



指定地が隣接する古戦場駅周辺は「シンボル・コア」として位置づけられ、上図のような施策の方針が記載されている。またこの中で古戦場公園については更なる施設の充実を図るとともに、「シンボル・コア」との連絡性を高め、本市の歴史と触れ合う機会を提供するとある。

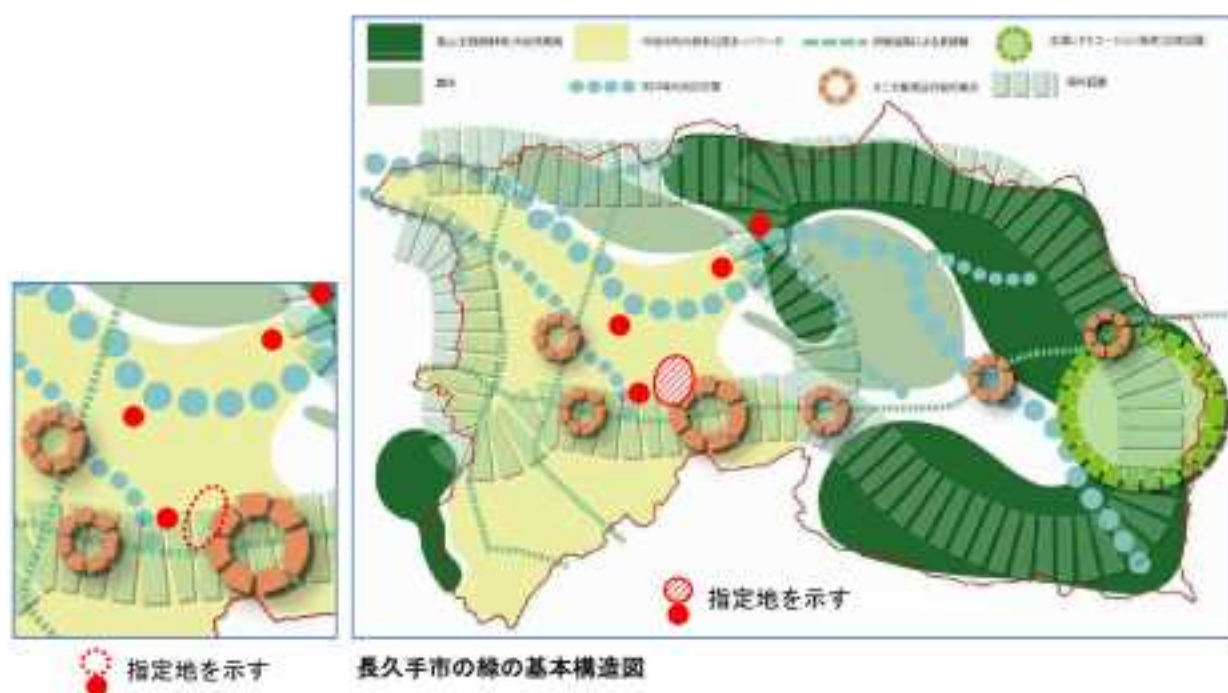
③ 第2次長久手市土地利用計画（平成21年3月策定、目標年次：平成30年度）

総合計画をふまえて作成されており、その中で計画地を含む西部地域のうち、市中央部は、本市の新たなシンボル・コアとして商業施設、レクリエーション施設、住宅等の立地を図り、複合拠点の形成を進めるとともに、隣接地域を牽引する土地利用のあり方についても検討を進めます。さらに、将来フレームの検討を踏まえた上で、その周辺部に対し段階的な市街地拡大について検討を進めるとある。



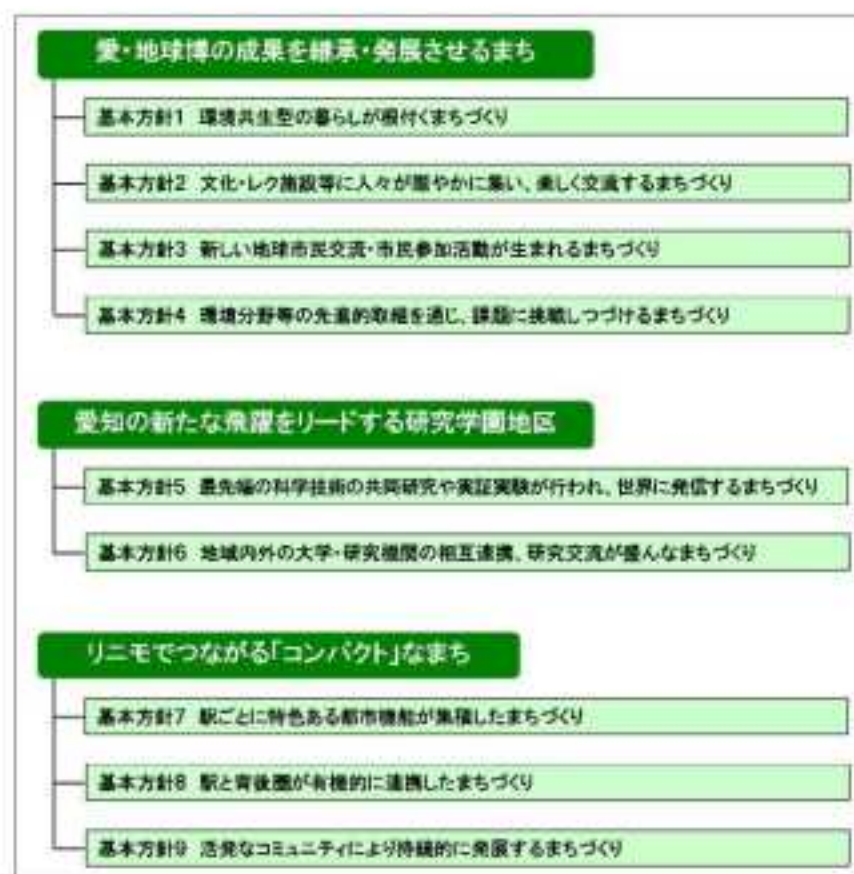
④ 緑の基本計画（平成 22 年 3 月策定、目標年次：平成 30 年度）

緑地の配置及び都市緑化に関する方針の中で、長久手古戦場駅周辺におけるシンボル・コアの形成にあたっては、古戦場公園の歴史要素も含め、本市の新たな「顔」としての景観形成を図るとある。



⑤ リニモ沿線地域づくり構想（目標年次：平成 21～27 年度）

愛知県とリニモ沿線の瀬戸市、豊田市、日進市及び長久手市が共同で策定した地域づくり計画で、地域の将来像とまちづくりの基本方針が以下のように示されている。



⑥ 第2次長久手市観光交流基本計画

（平成 27 年 3 月策定、計画期間：平成 27～28 年度）

目標像として、

あったかいふれあいのある、居心地のいいまち 長久手
 “住んでみて！ 訪れてみて！ いいまち ながくて”

基本理念として

魅力を生かしパートナーシップで進める「長久手観光交流まちづくり」

があげられている。

また計画に際して、市民や、観光交流に関わる施設職員、市民活動団体、商業店舗の来訪者 20 歳代から 70 歳代までの男女約 130 人を対象にアンケート調査（期間：平成 27 年 1 月）が行われており、市のイメージや今後の観光で重視していくべきことなどが調査されている。



「イメージするキーワード」としては、古戦場公園（史

地も含むと考えられる）が3位と高く、また、「体験観光で重視していくべきこと」では2位となっており、今後は更に古戦場などの歴史的資源を活かした観光への取り組みが望まれていることがわかる。

⑦ 長久手中央地区まちづくり基本構想（平成25年3月策定）

■上位計画・関連計画からの条件

- 長久手中央地区は長久手市の賑わいの中心地であり顔である
- 自然と人にやさしいまちづくりを進める

■基本コンセプトの検討条件（地の個性）

- 古戦場としての歴史性を継承すること
- 東部丘陵の緑の通なりとの調和を図ること
- 地形的変化をまちの表情の演出に活用すること
- 自転車利用の環境条件を活用すること

■基本コンセプト設定の考え方

- ・多様な世代、多様な活動の交流により市の賑わいを創出する
- ・古戦場としての歴史性を継承するまちづくりを進める
- ・木材や石等を用いて自然環境との調和を図るとともに時間の経過により深みが増すまちづくりを進める
- ・自然の素材感を生かして自然との親近感を感じる人にやさしいまちづくりを進める

■基本コンセプト

「緑に溢れ、多様な交流による
賑やかなまち」

■まちづくりのテーマ

「木と石と雑木林が織りなす
自然と歴史を感じるまちづくり」

よる賑やかなまち」

使わづかいのテーマ:「水と石と露木村が織りなす自然と

歴史を輝かせるまちづくり。

フラッグ1：つながり「一人ひとりに役割と居場所」

まちづくりの方針

：第 4 版主編劉明：

- ・多種多様な価値観（国・種、性別、年齢、職業、階級・階級感等）の存在を知る
- ・他者（一対一）と関わる多様な生活態度・価値観を「ヒートマップ」に位置する
- ・家族活動時間、健康意識等異なる文化の「生活様式」の調査等を行う

【リニセオラズのご紹介】

- ・大学の運営、学生生活及び市民活動の推進の「情」と「権限」と「情報基盤」を包む。
- ・経営面に対する支援、交通等のサービスを提供する。

のあるまち」

五、**其他**

- ・ 復興地帯に對して移住先地の村田の調査（『津波被災地分析報告』に於ける記載）。
 - ・ 土地の所有権を有する権利者の土地所有を主たる意思で移住先が計画される。
 - ・ 復興地帯と復興住宅の移住先としての「適切な計画（建築基準法附則）」を導入（第1相対的復興地帯を予定）。
- 「（復興）長久手市大学連携交流センター」、「復興」長久手市観光振興交流センター」及び「復興」長久手市コミュニティ情報ステーション」を計画。
- ・ リンクのサイトも参照。

フラッグ2：あんしん「助けがなかったら生きてい

生きづくりの未来

【リコモテラスの公営機構】

- 用字の無状を糾合地に表出する「讀」と「讀出」を創出

【市街の創造づくりとして進められる】

- ・リコモ君は古くから、森屋、山、川、田舎、町、そして海まで、あらゆる場所に暮らす。そして、その中で、最も大切な場所、それは、その心の中にある。それは、その心の中にある。それは、その心の中にある。

【星が輝く美しい空の情景】

- 公共交通の乗り換えやバスを最優先した駅前広場を整備する。
- ユニバーサルデザインによる施設整備。
- 駅前広場駅前駅舎と一体化して整備する。
- 駅とつながるにもR18キョウアンデライトロードスペースを確保するとともに、駅前駅前直道の直道は排除する。
- バスバーステーションと駅舎の一体化を推進。

けない人は全力で守る」

三、体的原则

- ・国境に駐する陸軍の兵船の機能、自衛に駐する空軍の機動隊を有する「(海軍)いざいびヤラス」を脱却。
- ・経路短縮による革命前線防衛の重要性を主張する者に対して、半信半疑であるが経済政策は「はくちく」「かてて」等。
- ・公共道路（バス、タクシー）と一般道路の分離を主張。異議を唱える者に対する防止。
- ・公共道路を工兵とリコモボイル革命前線防衛の中心に機能させる必要。
- ・一般車工兵内に経路短縮と経路延長の両方（30分以内は無料）。
- ・一般車を出発入口の乗客にそれぞれ配属し、利用者の選好を尊重する。
- ・経路短縮の経路短縮、バス、タクシーと一般車の経路短縮と経路延長の両方（30分以内は無料）。

フラッグ3：みどり「ふるさと（生命ある空間）の

来客づくりの方針

[illegible]

- ・公共空間が植栽を基本林道にする。
- ・商業施設等の付帯植栽を基本林道に誘導する。
- ・うるおいに潤った街で暮らす価値を創る。
- ・緑道を活用する。
- ・公園施設及び整備を推進する。
- ・公園緑化、歴史的緑地及び旧土・多摩緑地を緑道網に定める。
- ・緑道と水のある風景を創出する。

【公共交通機関利用を優先した例】

- ・不況に耐性のある産業を、人口・労働力に注力する。

【関連のやさしい書】

- ・再生可能エネルギーの利用率を高める。
- ・雨水の雨水浸透及び貯水貯蓄計画を推進する。

【市組織の歴史の経緯と現状】

- ・市議会公開及び市民参加型の活動を実施する。
- ・経済活動の促進やコミュニティ活動の振興、子育て支援活動等の社会貢献に努める。
- ・上記の社会貢献と適切な財務管理を推進する。

国産を子どもたちに

100% **FREE** **DELIVERY**

- ・新設施設（バス停留所）や道路工事・築地駅新道の、新設店舗、道路、公園及び公園に隣接する緑地の緑化や歩道などに沿った緑地造成等。
- ・ストリートファニチャー、公園施設等に本施設の木材や竹材を活用。
- ・新戸式大塚支店の近辺高台通の交差点を通過した「花の楽く緑大塚」の設置。

- ・ 経済性自動車ネットワークの構築として活用する。
- ・ リニモ長久寺古物販売店通り及び市街地地区道路（幅員10m）では、自転車、自転車及び歩行者の通行が主とする。

- + 知识区懂：建造某座公共建筑时，有了外部的“需求”。

- ・「物理的保護及び防護工器具等では、従来の生産的労働から被曝を回避する傾向が顕著であり、特にモノづくりの現場に広がって、シフト・ハード労働の身体負担軽減にも貢献し」
- ・「認知拡張、空間拡張及びリモート作業手段の活用技術等では、古くからモノづくりとする統一的なコンセプトで社会実装デザイン」
- ・「上記の分野の技術者がこれに習熟するよう、公域及び民間空間において未と石を磨削し、両者の経営とどちらに適しその実用が選手団のみを育成、(長年林業経験、税と経営による経営・シンボル樹木、石灯、石橋の管理、木研・木造、各種輸出等)」
- ・「リモート作業手段の活用技術の普及」

これらの上位計画を見ると、各計画とも史跡地に接する古戦場公園駅周辺を市の新たな都市核（シンボル・コア）として位置づけ、整備して行こうとしているのがわかる。

⑧ 古戦場公園再整備基本構想（平成27年3月策定）

この計画は、総合計画などの上位計画をうけ、市民や市内の大学生の参加によるワークショップ形式で計画されたもので、史跡地を含んだ古戦場公園の再整備に向けて基本的な方針を検討したものである。



市屋や大学生による検討会

《秀吉と家康が戦い、歴史が動いた。ここ長久手で。》

一古戦場をめぐり、体験する。訪れてみたくなるフォールドミュージアム

[illegible]

長久半の「武士の記憶」

古戦場の史跡、プラス「道沿一帯の出産風景」
 耕作から上田にかけての地域一帯の自然地形（里山と
 西沢川）と農業農村の生活文化が一体となって「小
 世・長久保の里」の発展を促している。

● 平面と垂直の判定

「歴史の大舞台」

国史(のちの書目)青島と徳川幕府が関係した「小説・長久平の戦い」は、我が国の近世史の大変な出来事であり、長久平の戦いは1944年。この戦いの主戦場となった「富士の麓」の舞台である。

長久寺の歴史を「里山回廊」と藤原の生活文化

- ・長久寺古刹南側に、長興、妙法、上座、3つの地区の鎌倉であり、古河川に代わられる3つの空間とそれらに合った農作、登山、集落が、上記の「武士の歴史」の舞台となる環境要素として残っている。

■ 事後は加害者でいくれも罰づけ（新たな犯罪発生抑制の期待）

『サニモテウス』(『大正経済叢書』)

第2章 史跡長久手古戦場の概要

1 史跡長久手古戦場の概要

(1) 史跡長久手古戦場の歴史

天正10年(1582)6月、織田信長が本能寺で明智光秀に討たれたのを発端に、羽柴(のちの豊臣)秀吉と織田信雄・徳川家康が天下をかけて戦ったのが、「小牧・長久手の戦い」である。長久手古戦場は両軍が激突した激戦地として知られている。以下に戦いの概要を述べる。



[出展：H21年度長久手町郷土資料室特別展資料より]

小牧・長久手の戦い

◆発端

天正10年(1582)6月、織田信長が家臣の明智光秀の手にかかり、本能寺で討たれた。そのとき、信長の三男信孝を大将に、光秀討伐軍を指揮したのが、羽柴(のちの豊臣)秀吉である。秀吉は、信長の後継者を決める清洲会議からしばらくすると、柴田勝家と対立し、天正11年賈ヶ岳の戦いで破った。こうした中で、信長の次男信雄は、当初は秀吉と友好関係をもったものの、信孝が秀吉に岐阜城を追われ自害した後からは警戒心をもつようになった。信長の後継者の立場を事実上確立した秀吉に対し、不満を感じる信雄は、織田家の同盟者であった徳川家康に助けを求めた。家康は、いつかは秀吉と対決しなければならないと考えていたので、これに応じた。天正12年3月6日、信雄が秀吉に内通していた三人の家老を殺害したことで、「小牧・長久手の戦い」は始まった。

◆主戦場は尾張に

秀吉そして家康・信雄の両者とも、当面は伊勢国、特に信雄の本拠長島城（三重県桑名市）のある北伊勢を戦場と想定していた。しかし、家康・信雄の予想に反し、美濃国大垣城主・池田恒興と美濃国金山城主・森長可が犬山城（愛知県犬山市）を攻撃、落城させた。慌てた家康は、池田・森の侵攻を防ぐため、自軍の一部を北伊勢から北尾張へ急遽転戦。天正12年（1584）3月17日、羽黒（犬山市）まで陣を進めてきた森軍を、家康の部将酒井忠次らが敗って、形勢を立て直した〔羽黒の戦い〕。一方、北伊勢では秀吉軍への守りが不足し、信雄領伊勢国の南半分は、ほぼ壊滅状態となった。羽黒で敗戦したものの、敵地犬山に拠点をもつことに成功した秀吉は、楽田（犬山市）に着陣、周辺に砦を築いた。楽田から南方約4.5kmの小牧山（愛知県小牧市）に家康も陣を移し、近辺に砦を作った。信雄も長島から小牧山に移った。両者の当初の思惑に反し、主戦場は尾張国内へ移り、お互いが出方をうかがうという状況になった。また、諸国へもこの戦いの様相が伝えられ、両将からの呼びかけに呼応し合戦に至った地域もある。秀吉方、織田・徳川方のどちらにつくか。この戦いは、日本中へ大きな影響をおよぼした。

◆岡崎進軍

4月に入り、膠着状態を破って秀吉軍は岡崎侵攻のための別働隊を進めた。史記類をもとにした通説では、この作戦の発案者は池田恒興で、「家康配下のほとんどの部隊は小牧山にいる。今、家康の本拠地岡崎を突けば、家康軍に乱れが生じ、そこを突けば勝利できる」と提案。最初はこの案に賛成しなかった秀吉も、恒興の熱心さに押され、ついに承諾したとされる。しかし、近年の研究で、事前の普請（工事）、行軍の規模、ゆっくりとした移動日程などから、この作戦は隠密行動というより、計画的で大がかりなものであったことがわかってきた。秀吉は、この案に主体的に介入し、自信をもっていたと思われるが、結果的には、この作戦の失敗は秀吉の汚点となった。そのため「太閤記」では、秀吉が恒興の案を「仕方なく受け入れた」と記され、後の史記がそれに従ったと考えられる。4月6日夜半、①池田恒興・元助の父子、森長可②堀秀政、長谷川秀一③秀吉の甥で総大将の三好信吉の順で、約24,000人の軍勢が岡崎へ向けて進軍を始めた。

◆岩崎城の落城

家康は、7日、遅くとも8日には秀吉方の岡崎侵攻隊の動きを把握、8日夜には自身が小幡城（名古屋市守山区）へ進んだ。岩崎城主丹羽勘助氏次を道案内役とした榊原康政ら4,500人の先発隊と9,300人の本隊が秀吉方を追撃に向かった。4月9日早朝、岡崎侵攻隊の先鋒池田隊は、岩崎城（日進市）のそばを通りかかった。恒興は、岡崎への道を急ぐため、この家康方の城を攻めずに通過しようとしたが、岩崎城を守っていた氏次の弟丹羽氏重らが鉄砲を撃ちかけてきたため、これを攻め落としてしまった。この城には、城主氏次の姉婿で長久手城主の加藤太郎右衛門忠景も留守番に来ており、200名余りの城兵とともに戦死した。忠景41歳、氏重16歳であった。なお、長久手城跡は、現在市指定史跡となっている。

◆白山林の戦い -家康軍の急襲-

秀吉の甥で、当時わずか17歳の三好信吉が指揮する秀吉方の最後尾は、4月9日早朝、白山林（尾張旭市）で朝食をとっていた。そこへ徳川軍の先発隊が背後から急襲。不意を突かれた三好隊は、あわてて防戦に努めたが、ついに総崩れとなった。大将信吉は細ヶ根（長久手市荒田）付近まで逃げたが、自分の馬も見失って、討死寸前まで追い込まれた。そこへ信吉の部将の木下勘解由利が、自分の馬を信吉にさし出して逃し、兄弟の木

下助左衛門祐久とともに、追ってきた徳川軍と戦って戦死した。なお、木下一族の塚は現在も荒田に残っており、勘解由利氏の塚が市指定史跡になっている。

◆松ヶ根の戦い（秀吉軍 唯一の勝ち戦）

三好隊の敗走を知った秀吉方の第2隊の堀秀政は、ただちに松ヶ根（長久手市坊の後／中央図書館付近）の丘陵上に陣を構えた。まもなく白山林で勝利した徳川勢が突進してきた。地の利を得た堀勢は、接近してきた敵に鉄砲のつるべ打ちをあびせた。隊列を乱した徳川勢に向けて、秀政は総攻撃を命令。堀勢の鋭い攻撃に徳川の先発隊は、多数の死者を出し、大打撃を受けた。しかしこのとき、秀政はすでに家康の本体が東方に進出しているのを知った。深迫いは不利と判断した秀政は、急いで自軍をまとめて、北方へ引き上げていった。

◆仏ヶ根の決戦

4月9日の朝、色金山（長久手市岩作色金／色金山歴史公園）周辺に着いた家康の本隊は、続々と香流川を渡って、午前10時ごろ富士ヶ根（長久手市富士浦）から仏ヶ根（長久手市武蔵塚の北部）、前山（長久手市城屋敷の東部）に陣を構えた。一方、岩崎城を落とした池田恒興のもとへ、信吉大敗の報告がもたらされた。恒興は急いで馬首を返し、すでに布陣を終えた徳川軍に対し、恒興は自分の長男元助を右翼に、娘婿の森長可を左翼に配した。両軍は激しく戦ったが、勝敗はなかなか決しなかった。しかし昼ごろ家康の本営に突進した長可が、井伊隊の銃弾を頭に受けて戦死（享年27歳）したため、戦いは徳川軍が優勢になった。戦いの終焉は、午後1時であった。池田恒興は永井伝八郎に、子の元助は安藤直次に討たれた。恒興49歳、元助26歳であった。池田父子の塚は、現在も国指定史跡として古戦場公園内に残る。

◆和睦

長久手の戦いで勝利をおさめた家康は、ただちに小幡城を経て小牧山に戻った。一方秀吉は4月9日昼ごろ、桑田の本営で岡崎侵攻隊の敗戦を知り、すぐに大軍を率いて救援に向かった。しかし、ときすでに遅く、龍泉寺まで進んだものの、そのころには家康は小幡城まで兵を引いた後であった。翌10日には、家康はすでに小牧城まで戻っており、秀吉軍は、なすすべもなく桑田に引き返した。その後、両軍は小牧・桑田周辺で小競り合いをしていたが、4月下旬に秀吉が美濃国鶴沼（岐阜県）に移動すると戦場地域も尾張西部へ移った。5月に加賀野井城・竹鼻城（岐阜県羽島市）、6月に蟹江城（愛知県海部郡蟹江町）で局地戦があったが、11月になると、桑名から長島方面へ攻撃した秀吉と、長島城にこもる信雄が単独で和睦したため、大義名分を失った家康も兵を引き、約8か月間にわたった「小牧・長久手の戦い」は、幕を閉じた。

この戦いで、信雄は伊勢国の大半と伊賀国を秀吉にわたし、事実上の敗北。秀吉は、旧信長家臣団を自身へ臣従させ支配体制を再編成、翌年には関白となり全国統一を推し進めていく。家康は、結果的に秀吉に臣従したが、その実力を全国の大名に認識させ、秀吉政権下でも別格の地位を保ち、徳川政権樹立の足がかりを固めていった。

(2) 史料等で見ると古戦場

ア 合戦図屏風

「小牧・長久手の戦い」、特に「長久手合戦」の様子を描いた合戦図屏風が複数存在する。最も早い時期に成立したといわれ、他の写本の基となったといわれるものに財団法人犬山城白帝文庫所蔵の「小牧長久手合戦図屏風」(以下「成瀬家本」という。)がある。

※下表の合戦図屏風については、●印のあるものは長久手町史 本文編 付図に詳細な解説がある。

表 合戦図屏風一覧

名称		和暦	西暦	所 蔵	備 考
●小牧長久手合戦図屏風(副本)	六曲一隻	江戸後期	—	犬山成瀬家所蔵	成瀬家本の副本
小牧長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸後期	1829	松浦史料博物館	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸後期	—	個人	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸後期	—	三河武士のやかた家康館	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸後期	—	東京都個人	成瀬家本の写本
小牧長久手合戦図屏風(粉本)	六幅	江戸後期	—	東京国立博物館	成瀬家本の粉本
●小牧長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸後期	—	徳川美術館所蔵	成瀬家本の写本、一部改作
●小牧長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸後期	—	大阪城天守閣所蔵	徳川本系の写本
●長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸後期	—	豊田市所蔵(浦野家所蔵)	成瀬家本の写本、一部改作
※上記資料は、「図説 戦国合戦図屏風」2004年 (学研) を参考とした。					
小牧長久手合戦図屏風		江戸中期	—	名古屋市博物館所蔵	
●長久手古戦場之図		不詳	—	岡山大学池田家文庫蔵	
池田恒興図像			—	鳥取県立博物館所蔵	



小牧長久手合戦図屏風

犬山城成瀬家所蔵



小牧長久手合戦図屏風

大阪城天守閣所蔵



小牧長久手合戦図屏風

徳川美術館所蔵



長久手合戦図屏風

豊田市所蔵（浦野家旧蔵）



小牧・長久手合戦図屏風

名古屋市博物館所蔵

「成瀬家本」に見られる主要場面。



※平成28年長久手市郷土資料室特別展資料に加筆



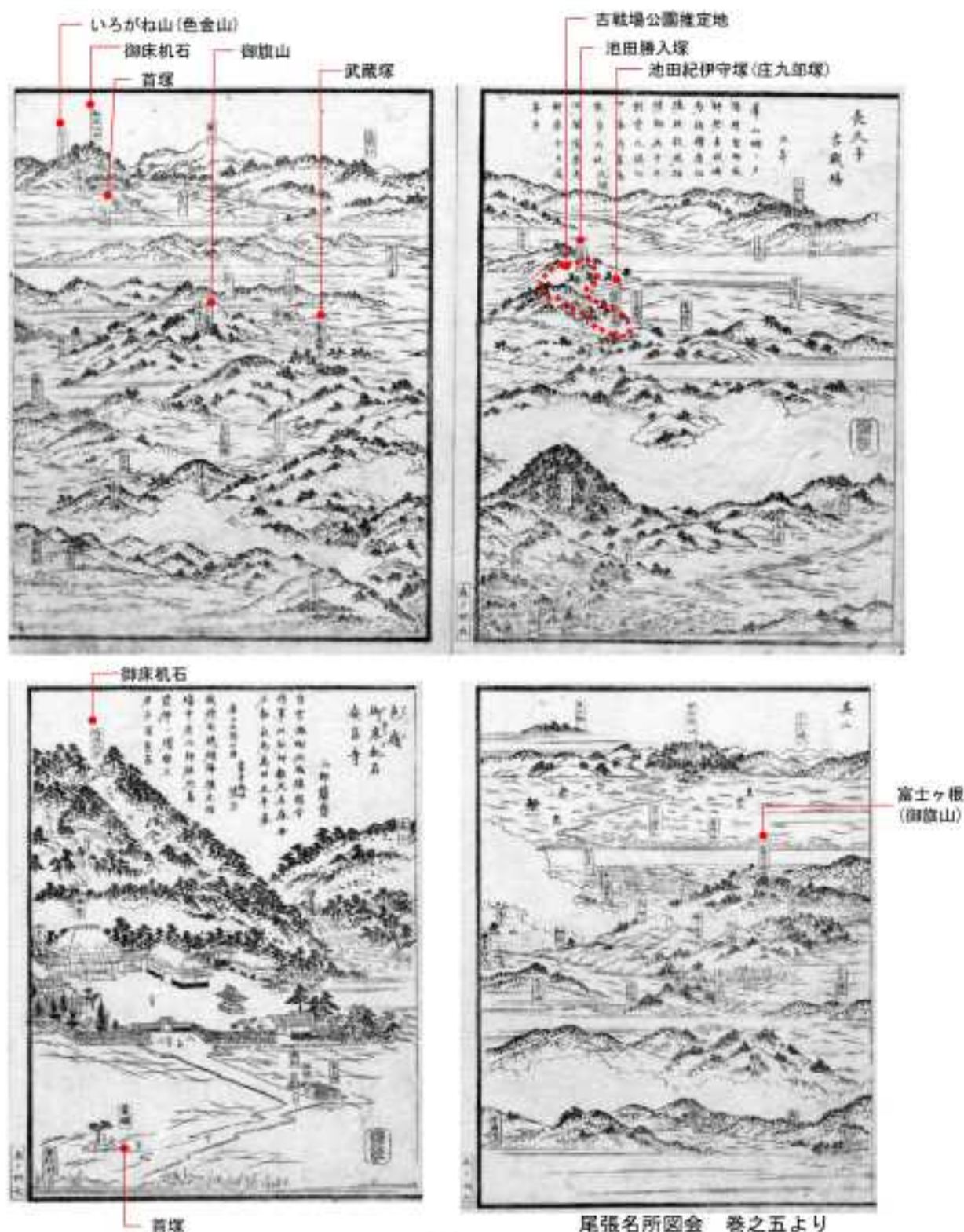
※平成 28 年長久手市郷土資料室特別展資料に加筆

『長久手合戦覚書』には、「御合戦場は中
に通ありて、道より御東の方は田、御右の方は路切にため池有、それより御右の方はくほ
みにて是場よく、前後野原にて小松少々有之よし」と描写されている。下図は、現在の長
久手市の様子である。



イ 絵図など

『尾張名所図会』は、天保12年(1841)に成立されたもので、尾張の名勝、古跡、風俗、名産、神社仏閣などを絵と平易な文章で説明した地誌である。前編は名古屋・熱田を含む愛知郡・知多郡・海東郡・海西郡の四郡を収録する。長久手市関係は巻之5に散見する。その中で古戦場に関する絵図には、以下のようなものがある。





尾張名所図会附録 三より

名所見物という感覚が、いつ頃から一般に生じたものか、定かではないが、江戸時代に入ると、神社仏閣参詣だけでなく歴史の現場を見て、史的事実を巡りながら景観も楽しむことが行われていた。長久手における史料としては、『鸚鵡籠中記』や『尾張御行記』、『尾張名所図会』があり、見物コースとしては古戦場全体を俯瞰し、池田勝入塚、森武蔵塚などをたどって色金山の麓にある安昌寺を訪ねるといったことが行われていた。

① 「尾州愛知郡長久手之邑」絵図 寛政5年(1793)

江戸時代に古戦場を訪れる多くの尾張藩士に供覧され、絵図で見所やその区間の距離等が書かれている。



② 長久手古戦場之図 天保11年(1840)



③ 近世村絵図

寛政4年（1792）から万延元年（1860）にかけて作成されたものである。



岩作村 万延元年（1860）



長久手村 寛政期

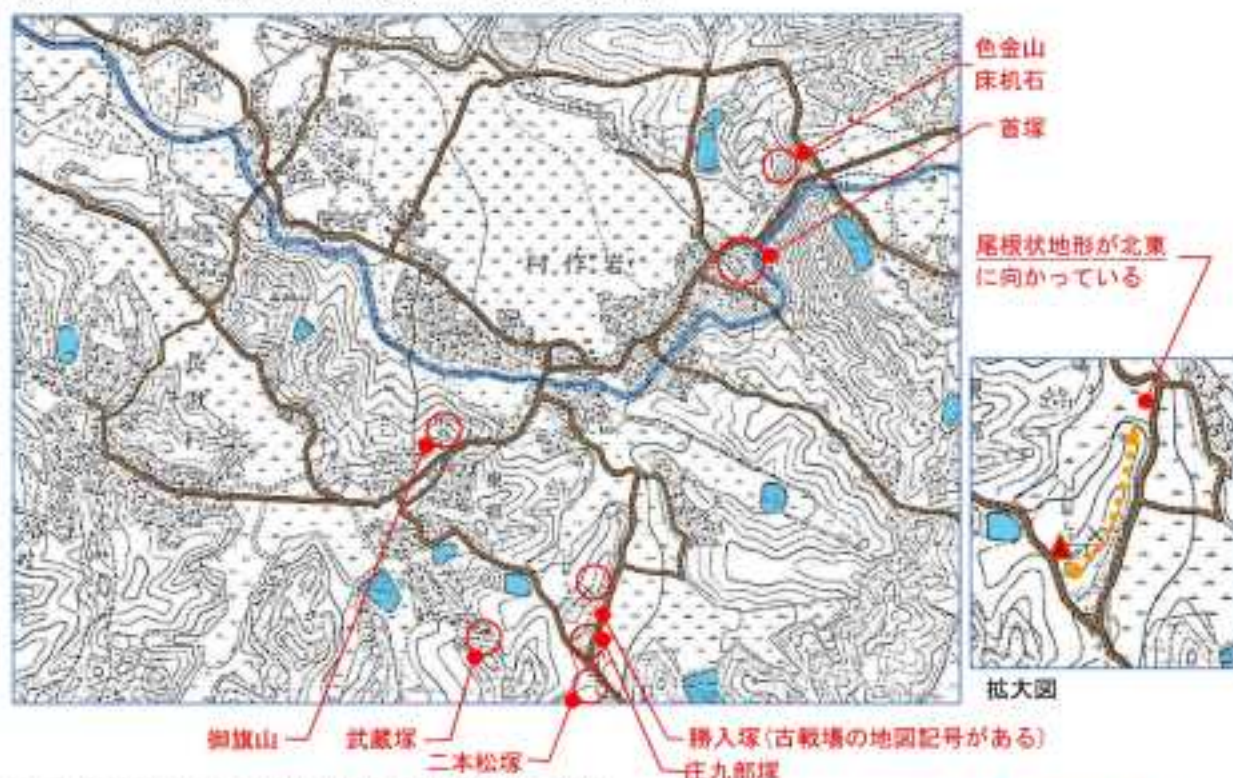


長久手村 嘉永2年(1849)

(3) 地形図に見られる変遷

指定地やその周辺の地形を明治、大正、昭和と比較して、本来の地形がどうであったか、いつ頃から現在の姿になったかを見ていく。

■明治44年(1911)[大日本帝国陸地測量部地形図に加筆]



■大正9年(1920)[内務省地理調査所地形図に加筆]



■昭和 38 年(1963) 長久手村全国に加筆



■昭和 47 年(1972) 国土地理院地形図に加筆



■昭和 54 年(1979) 国土地理院地形図に加筆



■平成 18 年(2006) 長久手町全国に加筆



■平成 25 年(2013)[長久手市]



■平成 28 年(2016)

現況測量図

- ・明治以降の地形図から見られる尾根線は、現在も残っているのが確認できる。
- ・明治以降の地形図を比較すると尾根の頂上は、現在も変わっていないのが確認できる。
- ・史跡地に接する西側の道路は、明治時代の地形図にも表記されている。



区画整理前の地籍図

勝入塚と御旗山は長湫中部土地区画整理事業、庄九郎塚、二本松塚、武蔵塚は長湫東部土地区画整理事業により周辺部が大きく変わった。

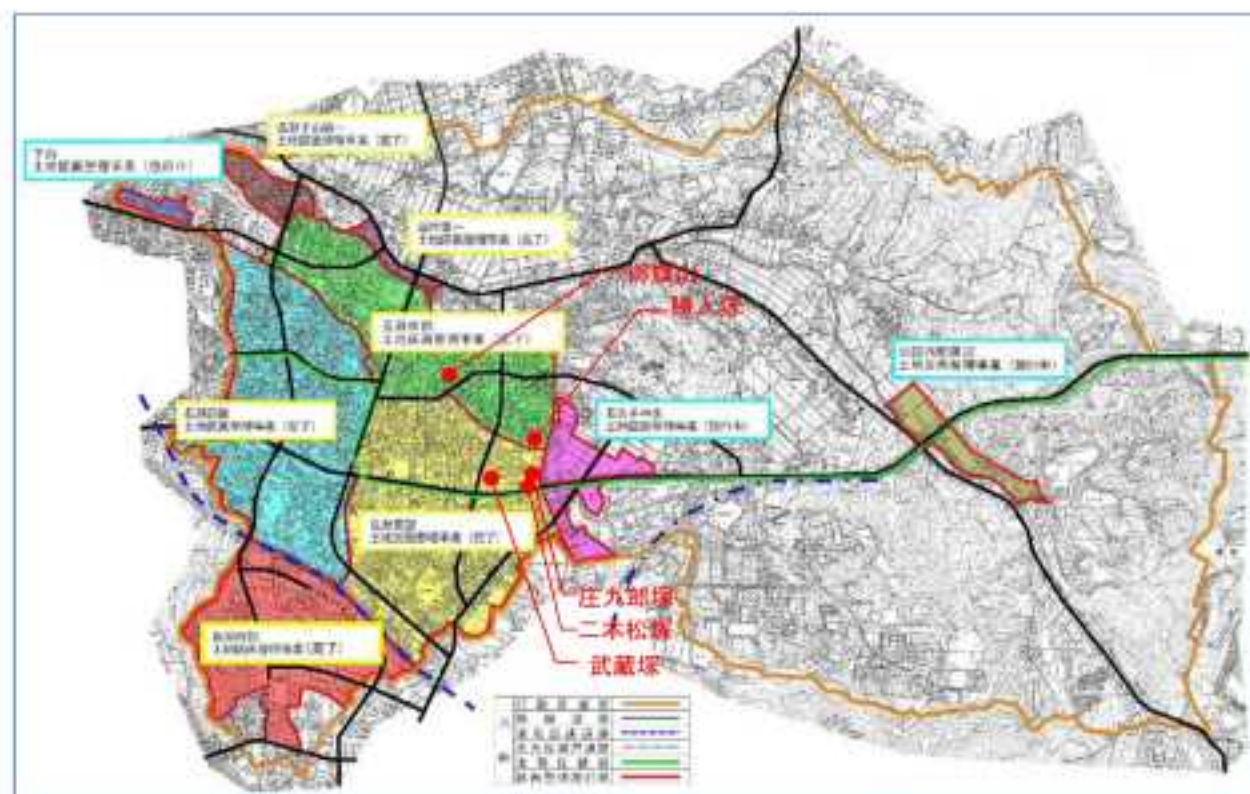
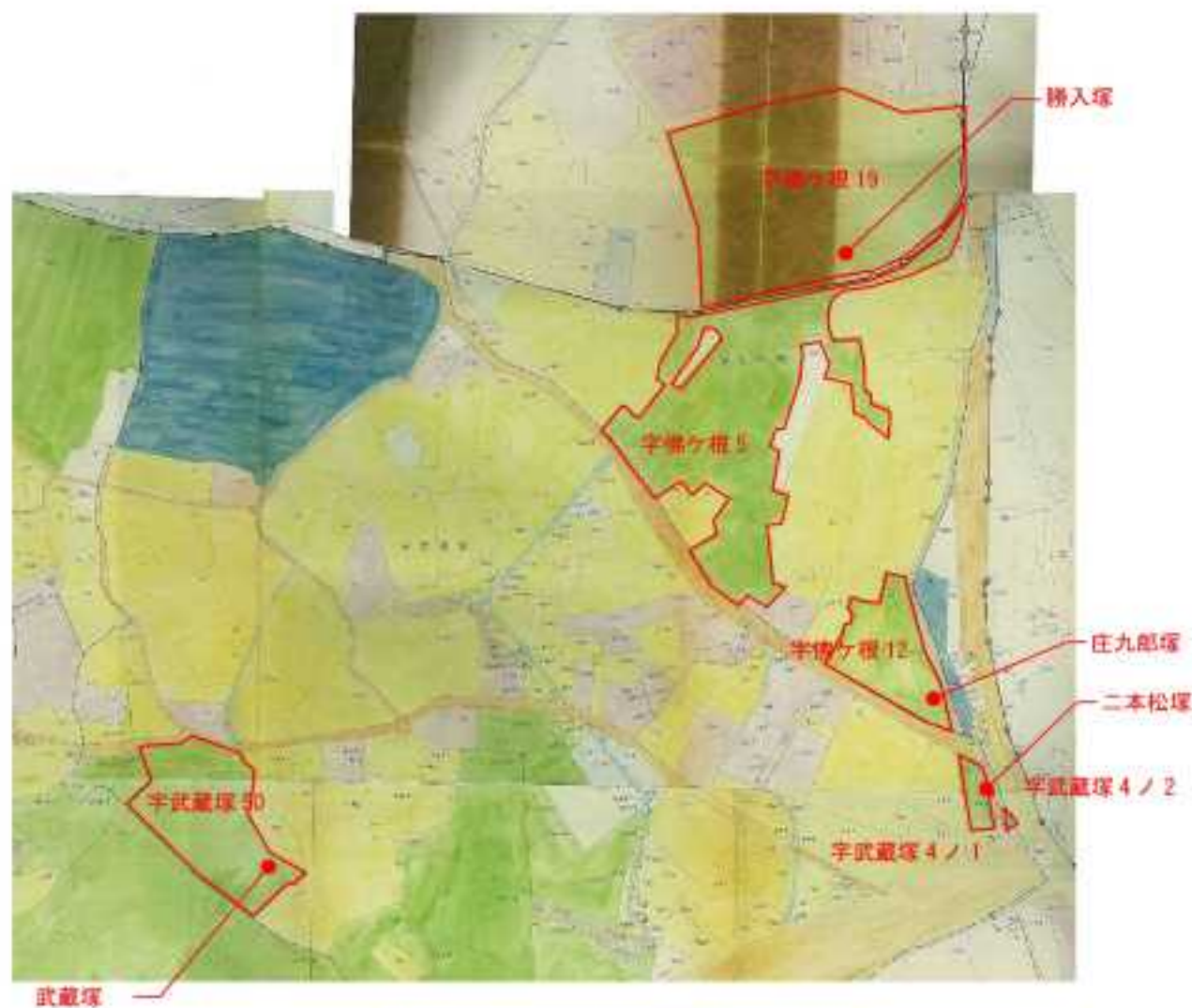


図 一 土地区画整理地区位置図

表一 土地区画整理地区の概要

事業名	面積(ha)	施工認可期間	計画人口(人)	計画戸数(戸)	進捗	史跡関係態様
長湫西部	158.9	昭和47～平成12年度	14,847	3,907	完了	完了
長湫東部	163.5	昭和48～平成5年度	14,463	3,606	完了	庄九郎塚・武蔵塚・二本松塚
下山第一	13.6	昭和53～昭和56年度	1,261	332	完了	完了
長湫中部	106.7	昭和56～平成16年度	8,827	2,757	完了	勝入塚・御旗山
岩作第一	4.7	平成4～平成15年度	342	114	完了	完了
長湫南側	88.2	平成10～平成19年度	5,100	1,910	完了	完了
長久手中央	27.4	平成22～平成31年度	1,730	692	旅行中	旅行中
公園西駅周辺	20.6	平成25～平成35年度	1,200	480	旅行中	旅行中
下山	5.5	平成25～平成32年度	450	180	旅行中	旅行中



区画整理前の地籍図

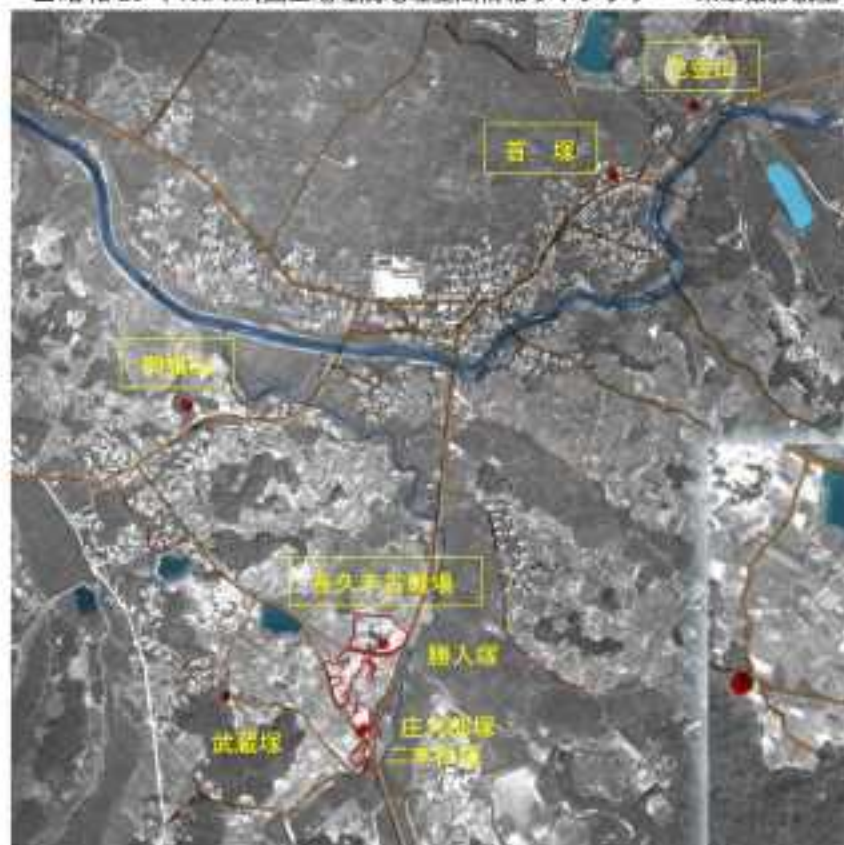


区画整理前の地籍図

(4) 写真に見られる変遷

指定地やその周辺の地形を昭和と平成時代の航空写真で比較した。

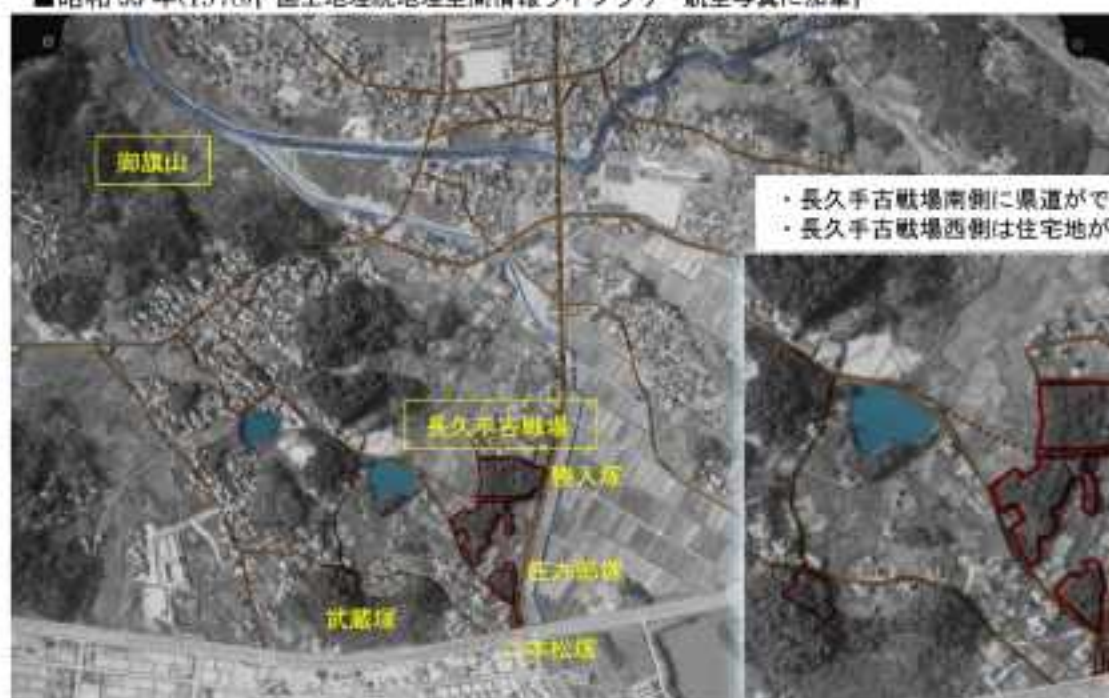
■昭和 23 年(1948)[国土地理院地理空間情報ライブラリー 米軍撮影航空写真に加筆]



- ・長久手古戦場(武蔵塚を除く)は樹木があまり見られず、勝入塚周りにだけ樹林となっている。
- ・また東側は畑地として利用されていた。
- ・武蔵塚は山林の裾野にあり、背後や樹林地となっていた。



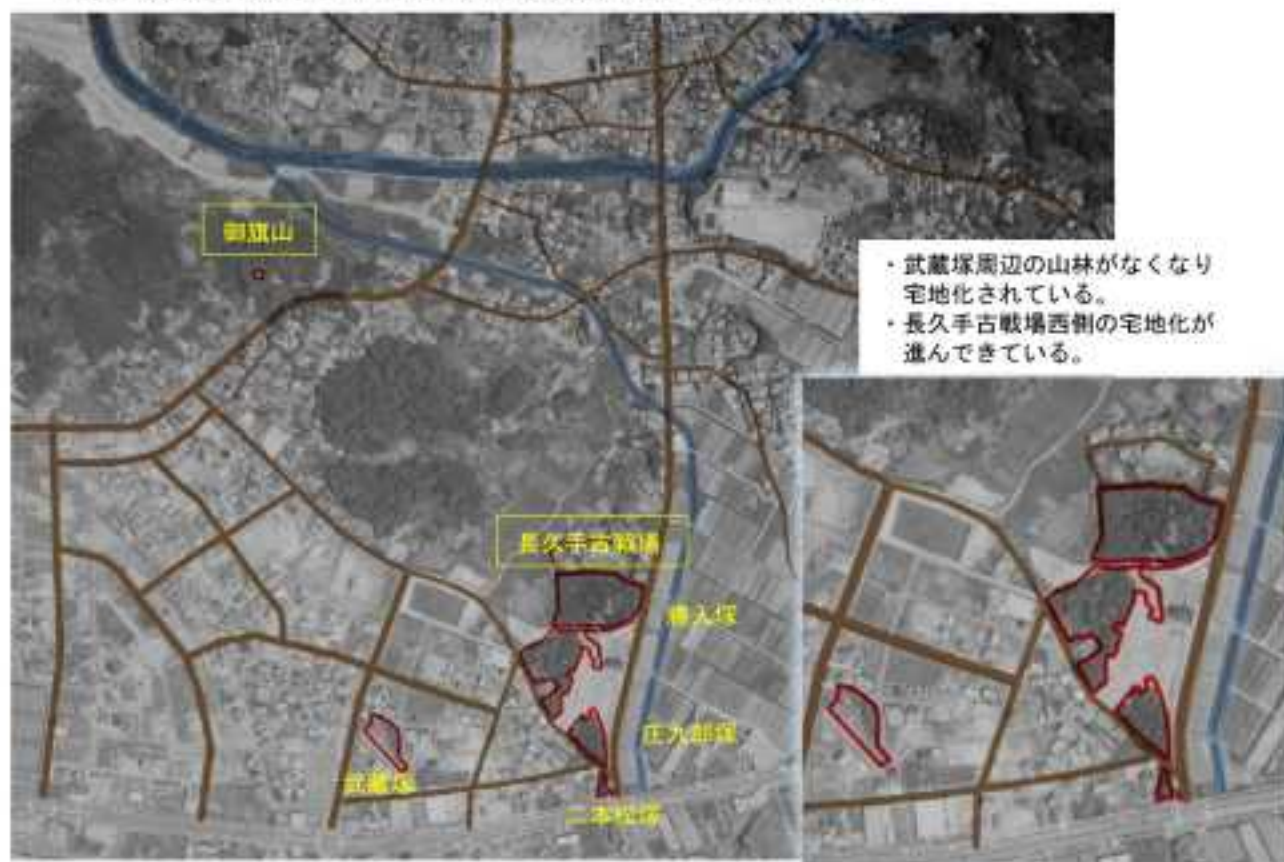
■昭和 53 年(1978)[国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



- ・長久手古戦場南側に県道ができています。
- ・長久手古戦場西側は住宅地が増えている。



■昭和60年(1985) [国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■昭和62年(1985) [国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真に加筆]



■石碑で見る変化【勝入塚】

● 明治 43 年頃

(豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集より 2010 年[樹林社])



・石碑の横に松が植えられている。周辺に樹木はあまり見られず。見晴らしの優れた場所であったようだ。

● 大正 11 年(長久手古戦場絵はがきより)



・石碑の横に松が植えられている。周辺に樹木はあまり見られない。石碑の周りが石垣に変わっている。
・背後の山並みが映っており、見晴らしの優れた場所であったようだ。

● 平成 28 年撮影



・石碑周りの樹木が繁茂し、石碑が見えにくくなっている。

● 昭和 20 年代

(平成 20 年度長久手市郷土資料室特別展より)



・明治 43 年写真の松が枯れている。
・周りに樹木が見られない。

・石碑が樹木で見えなくなっている。

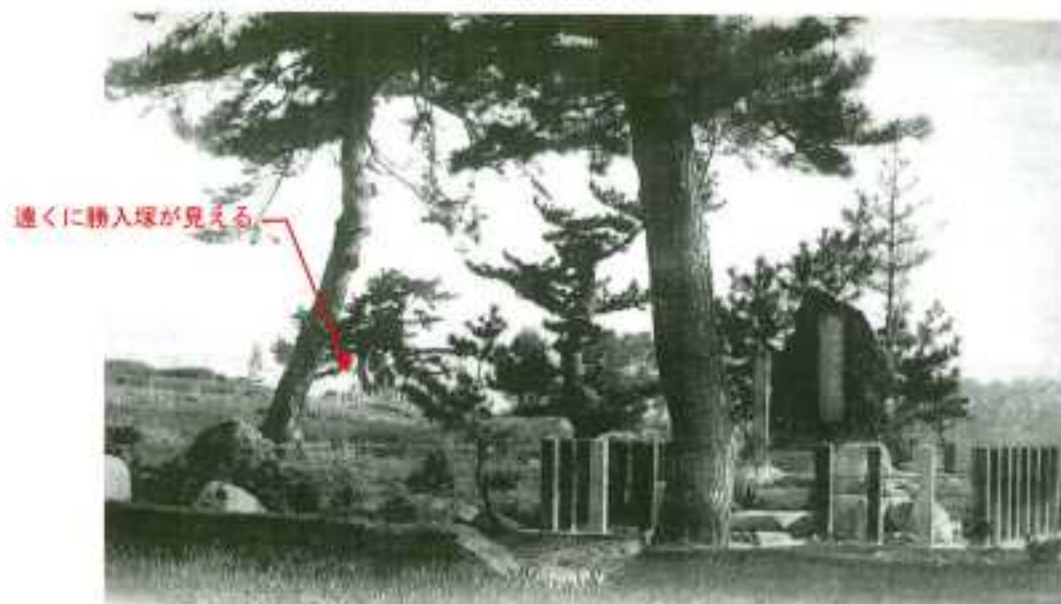
● 昭和 61 年

(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



【庄九郎塚】

- 明治 43 年頃
(平成 18 年度長久手市郷土資料室特別展より)



- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・石碑入口前に松が植えられているだけで、周辺に樹木はあまり見られない。
- ・石碑内に松の幼木が見られる。
- ・勝入塚同様、見晴らしの優れた場所であったようだ。



- ・石碑内に多くの樹木が見られる。

- 平成 28 年撮影



- ・石碑周りの樹木が繁茂し、石碑が見えにくくなっている。



【 武蔵塚 】

● 明治 43 年頃

(豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集より 2010 年[樹林社])



・背後は山林となっている。

● 大正 11 年

(長久手古戦場絵はがきより)



・明治 43 年頃とあまり変わっていない。

● 昭和 61 年

(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



・背後の山林が区画整理で無くなって、右側にフェンスが出来ている。

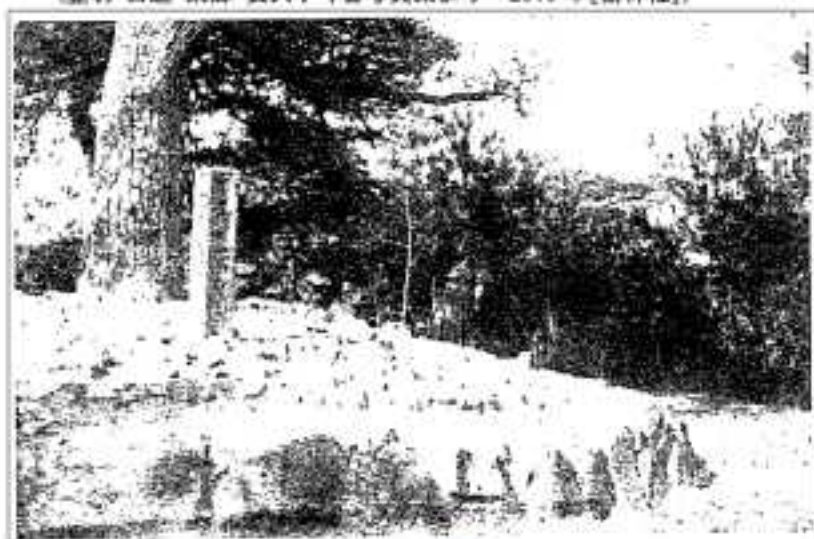
● 平成 28 年撮影



・背後にツバキの生垣が植えられている。
・樹木が繁茂し石碑が見えにくくなっている。

【御旗山】

- 明治43年頃
(豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集より 2010年〔樹林社〕)



- ・左上に大きな松の木がある。
- ・背後に山並みが見える。



- 昭和61年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



- ・背後は樹林となっている。



- 平成28年撮影



- ・樹間から遠くの景色がわずかに見える。

【首塚】

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



・石碑周りもすっきりしており、石碑が良く見える。



- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と
考古資料より)



・樹林が繁茂し、明和の碑が見えなくなっている。

- 平成 28 年撮影



・樹林が繁茂し、明和の碑が見えにくくなっている。

【色金山】

- 明治 43 年頃
(豊明・日進・東郷・長久手今昔写真集より 2010 年[樹林社])



・周囲に樹木が見られず、開けた場所であったようだ。

- 大正 11 年
(長久手古戦場絵はがきより)



・床机石や石碑の周りが石柵で囲まれている。
・周辺が開けている。

- 昭和 61 年
(長久手町史 資料編三 遺跡と考古資料より)



・床机石や石碑の周りが石柵で囲まれている。
・周辺が樹木で囲まれている。

色金山歴史公園整備にあたり、平成 7 年に現状変更の許可を経ている。

現状変更等の内容及び実施の方法
柵、石組等を撤去し、玉石縁石、植樹、及び史跡案内板を施す。
(市内部文書より)

- 平成 28 年撮影



・背後の樹木が繁茂し、閉塞感を感じる。

2. 指定に至る経緯

長久手古戦場は、史蹟名勝天然紀念物保存法第一条により昭和14年（1939）9月7日に長久手古戦場及び御旗山、首塚、色金山が、以下の理由（説明）により国史跡に指定された。

- ・天正12年（1584）小牧・長久手の戦いの主戦場にして激戦地点であったと認められること。
- ・羽柴秀吉の先鋒池田恒興、庄九郎父子・森長可と徳川家康軍が激戦したところ。
- ・字仏ヶ根に池田恒興、字武蔵塚に池田庄九郎、その西方約二町（約220m）同字地内に森長可の墓があり、いずれも明和8年（1771）12月建設の石標及び各家子孫の建設による顕彰の石碑があること。
- ・宇城屋敷は池田方陣地と伝えられ、鎧掛の松と呼ばれた老松があったが枯損のため今は取り除かれていること。
- ・御旗山は、高さ約300尺（約90m）の独立の小山で眺望に富み、家康の牙旗を立てたところと伝えられ、頂上の富士社社殿の傍にその由来が記された石標があること。
- ・首塚は、大字岩作の人家に囲まれた中に石垣を組み、寛永3年（1626）4月建設の石標、明治43年（1910）4月建設の首塚碑があること。
- ・色金山は、首塚の北約1町（約110m）安昌寺の後方にある丘陵であり、南西に激戦地を望め、丘上にある3個の自然石は床机石と呼ばれ、家康が戦況展望の際に床机にかえたるものと伝えられ、寛永3年（1626）建設の石標及び明治43年（1910）4月建設の碑があること。

3. 指定の状況

(1) 指定告示等

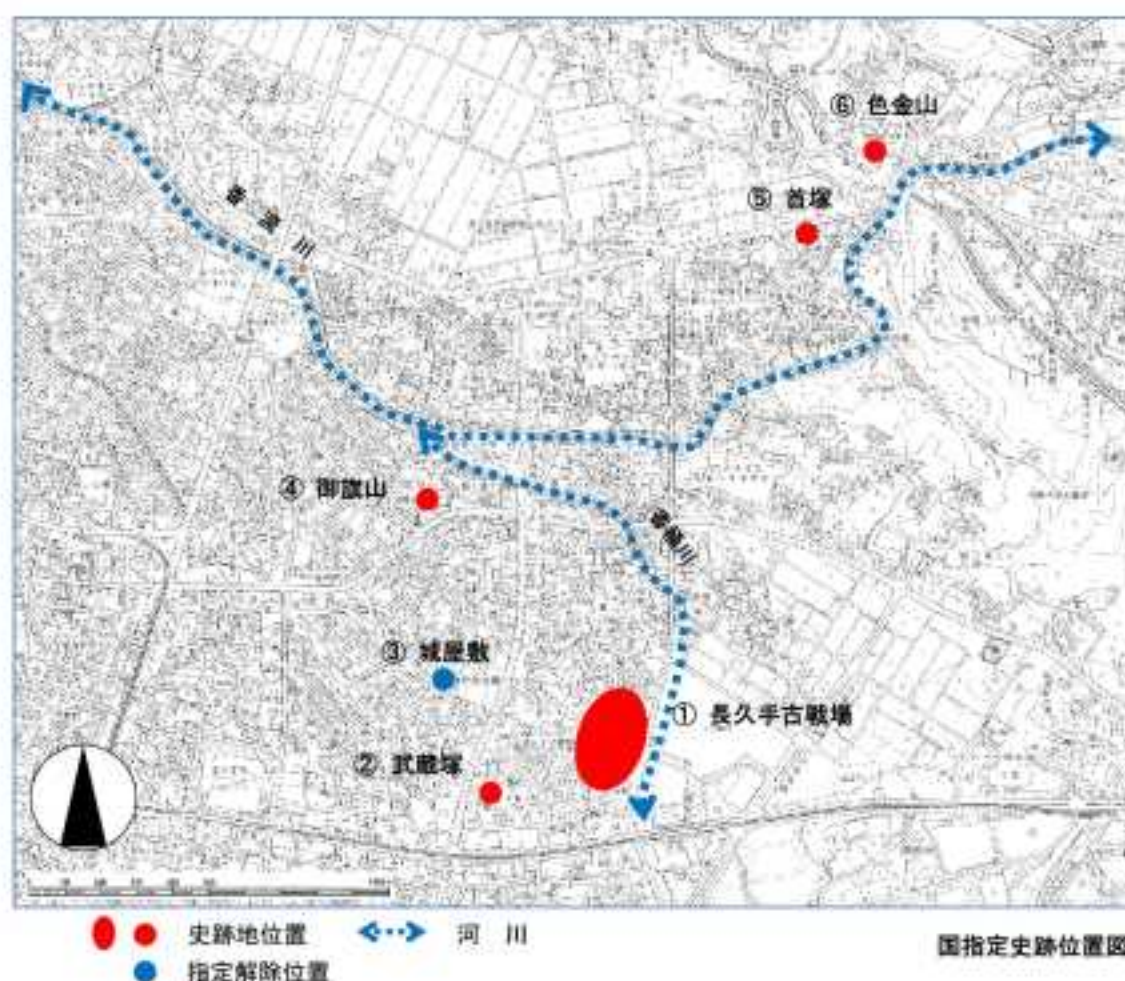
① 指定告示

昭和 14 年（1939）9 月 7 日、文部省告示第四百十号により、以下の箇所が史蹟名勝天然記念物保存法第一条に依り第一類の史跡に指定された。

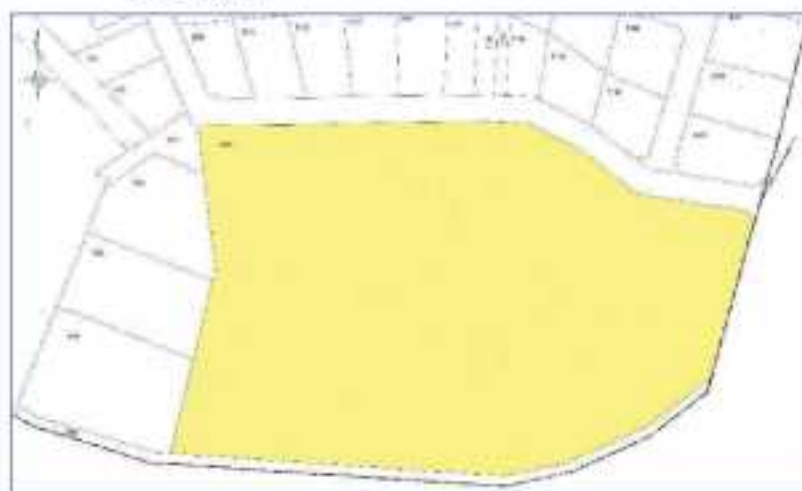
長久手古戦場	愛知県愛知郡長久手村大字長湫字佛ヶ根	五番、一二番、一九番	－①		
	同	字武蔵塚	四番ノ一、四番ノ二、五〇番	－②	
	同	字城屋敷	九〇番ノ一、九〇番ノ二	－③	
附 御旗山	同	字富士浦	四一番	富士社境内	－④
首 塚	同大字岩作字元門	四一番	－⑤		
色金山	同字色金	三七番ノ一、内實湖七畝十五歩	－⑥		

※右側の○数字は下図の史跡地の位置を示す。

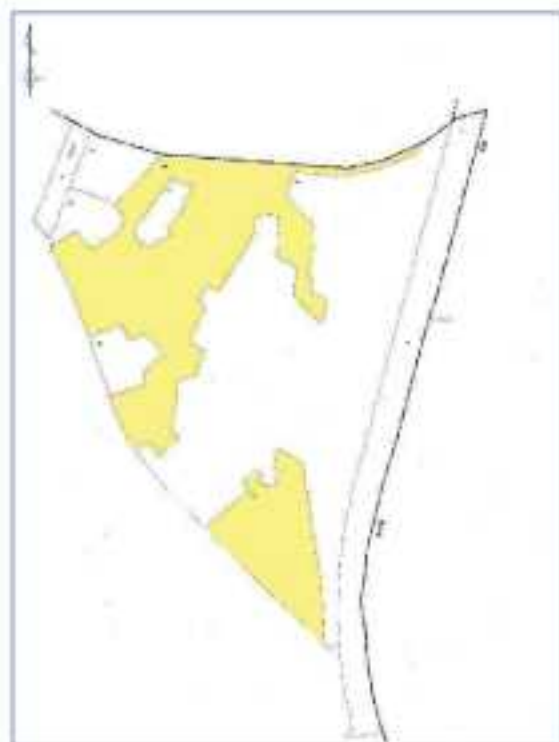
・その後、同字城屋敷 九〇番ノ一、九〇番ノ二（現在の血の池公園付近）は、土地開発により著しく改変があったとされ、昭和 40 年（1965）12 月 10 日付けで、文化財保護委員会告示第 66 号により指定を解除された。



② 地籍図



●長久手古戦場
仏が根 1202 番



●長久手古戦場
武蔵塚 202 番地、武蔵塚 205 番



・西側斜面に見られる境界石

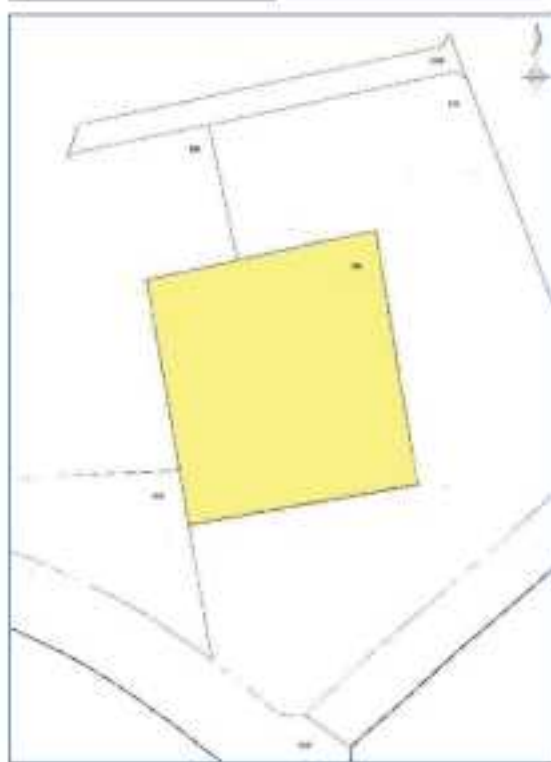


●長久手古戦場
武蔵塚 620 番、武蔵塚 622 番

●長久手古戦場
武蔵塚 906 番



●附 御旗山
富士浦 602 番



●附 首塚
岩作元門 41 番



●附 色金山
岩作色金 37 番 1 の一部



(2) 指定解説文

文部省告示第四百十号による国指定史跡の事由及び保存の要件は以下の通りである。

指定の事由	史蹟の部第四及第三ニ依ル(当時は、史蹟を史蹟として表示)
保存の要件	碑石ノ毀損及破壊ヲ為サザルコト 樹木ノ伐採及栽植ニ當リテハ十分注意スルコト

臺史蹟の部第四及第三とは、

- ・第四（古城跡、城砦、防塁、古戦場、国郡庁跡其他政治軍事に關係の深き史跡）
- ・第三（古墳及著名なる人物の墓並碑）

長久手古戦場史跡指定書（その1）

[illegible]

長久手古戦場史跡指定書（その2）

首塚、大寺岩、作早、門、縣道、北側、人家、田、之、中、 中、高、大、原、五、十六、八、中、北、寺、大、略、方、形、石、垣、經、 中、寶、永、三、年、四、月、建、設、首、塚、北、北、石、垣、及、祠、 治、世、十、二、年、四、月、建、設、首、塚、碑、之、儀、ハ、高、土、八、ツ、上、 松、城、寺、附、家、墓、所、ノ、儀、	邑、金、山、ハ、昔、祓、ノ、北、約、一、町、宇、品、寺、後、方、ニ、 度、シ、テ、山、向、濃、藏、地、盤、雙、豆、ノ、得、ル、立、上、ニ、 一、五、福、ノ、自、然、石、ハ、方、米、鉢、凡、五、六、ト、時、六、ト、依、座、 斷、然、展、望、降、臨、凡、代、ハ、ア、ル、モ、ト、傳、ハ、ル、傳、ハ、 寶、永、三、年、建、設、御、鉢、凡、石、ト、記、ス、石、標、及、明、治、四、	十五、年、一、月、建、設、糾、鉢、石、紀、ト、記、ス、ト、傳、 保、存、毎、日、史、蹟、ヲ、訪、ヲ、四、五、米、三、依、セ、 研、石、館、攝、及、破、壞、ノ、爲、メ、ツ、ハ、セ、 一、樹、木、ハ、伐、採、及、裁、植、當、メ、ツ、ハ、セ、今、注、意、ス、ル、ト、
---	---	--

[illegible]

44

(3) 指定地の状況

① 所在地と面積

長久手古戦場の住所・地目・面積については、以下の通りである。(面積は、登記簿面積)

名 称	指定時住所	住所	地目	地積 (㎡)
長久手古戦場	字佛ヶ根12	武蔵塚202番	雑種地	6,112.54
	字佛ヶ根5	武蔵塚205番	雑種地	2,022.88
	字佛ヶ根19	仏が根1202番	雑種地	8,436.00
	字武蔵塚4-1	武蔵塚620番	雑種地	307.00
	字武蔵塚4-2	武蔵塚622番	雑種地	16.52
	字武蔵塚50	武蔵塚906番	雑種地	2,558.29
附 御旗山	字富士浦41	富士浦602番	境内地	2,791.00
附 首塚	岩作元門41	岩作元門41番	原 野	42.00
附 色金山	岩作色金37番1の一部	岩作色金37番1の一部	山 林	743.80

② 現況管理体制

土地所有・管理については、以下の通りである。

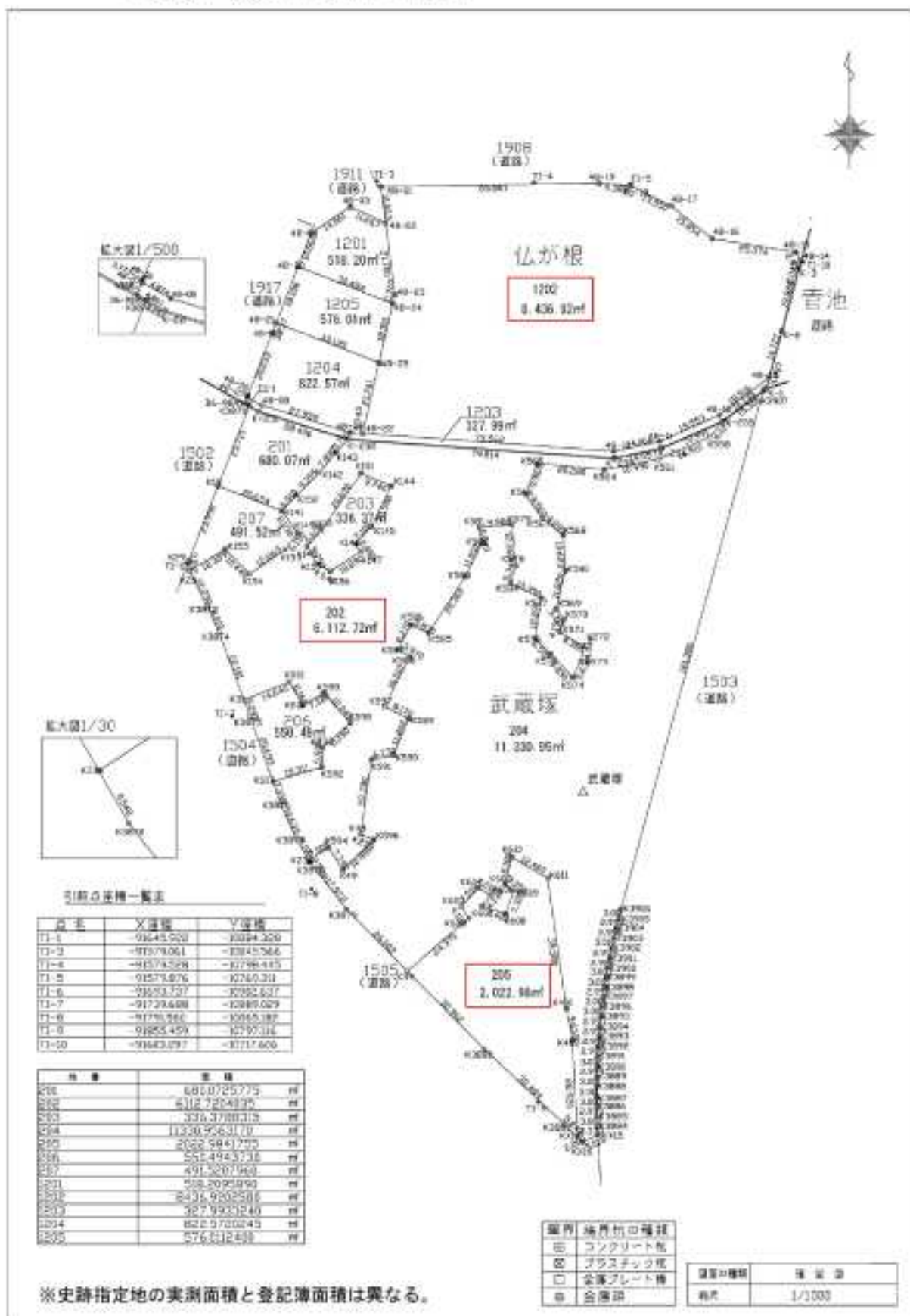
名称	住所	所有者	管理者
長久手古戦場	武蔵塚 202 番外 5 筆	長久手市	長久手市
附 御旗山	富士浦 602 番	富士社	境内地として区が管理
附 首塚	岩作元門 41 番	石作神社	長久手市※
附 色金山	岩作色金 37 番 1 の一部	石作神社	長久手市

※地元有志

③ 指定範囲（長久手古戦場）の現況図



指定範囲（長久手古戦場）の確定図



(4) 指定地の現況

① 地 形

現況地形は、指定当初から改変等は概ね行われていないと考えられ、明治・大正時代の地形図と比較しても、特徴的な南西から北東へ向かう尾根は現在も残されている。

隣接する「古戦場公園」の地形を見ると、史跡境界線から外側が造成されているのがわかり、指定地への影響を避けた造成が行われたと考えられる。

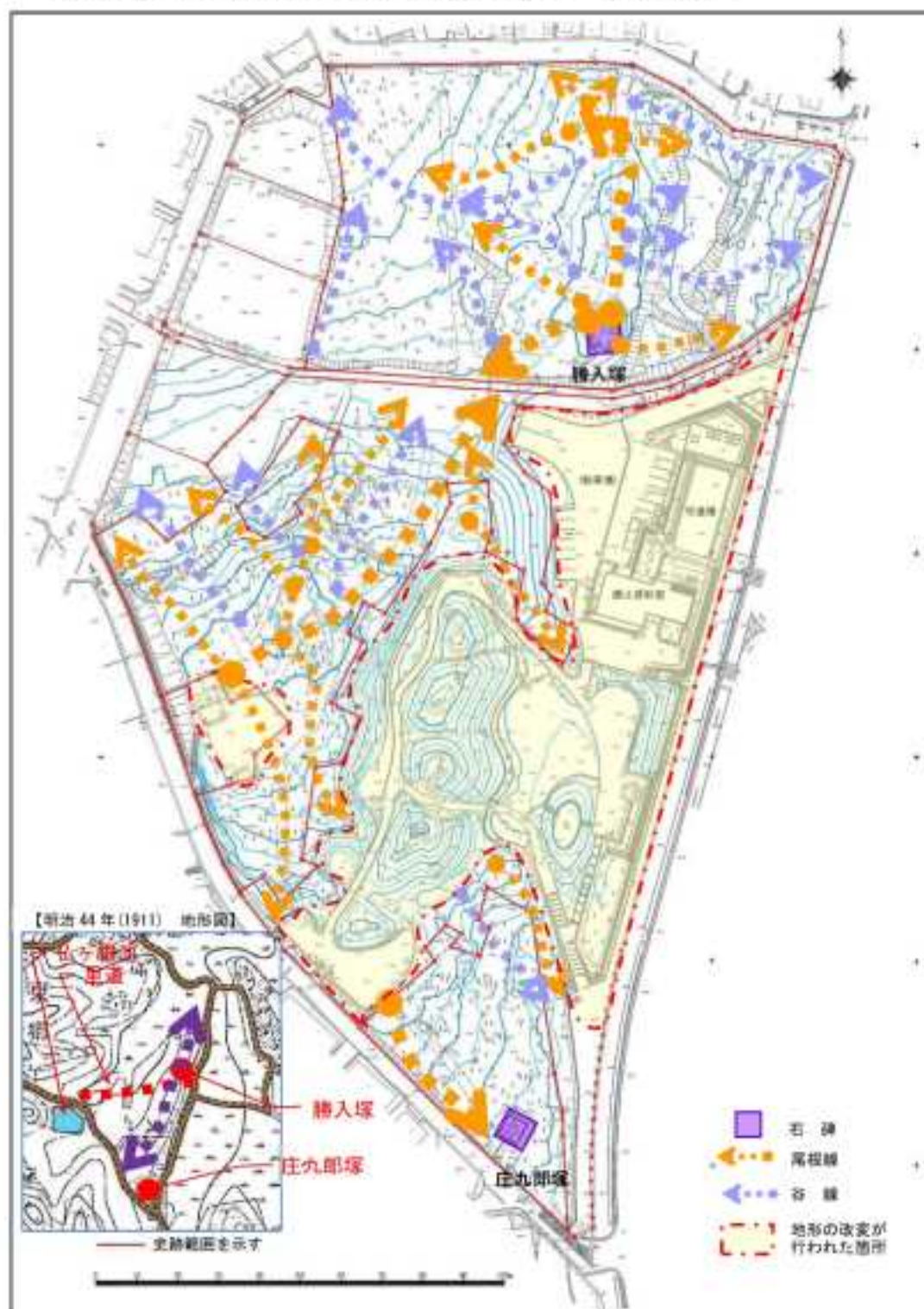


図 - 現況地形図

現在の地形（前頁参照）と「古戦場公園」が建設された当時の地形を比較してみると、史跡範囲内での、地形の改変は見られない。

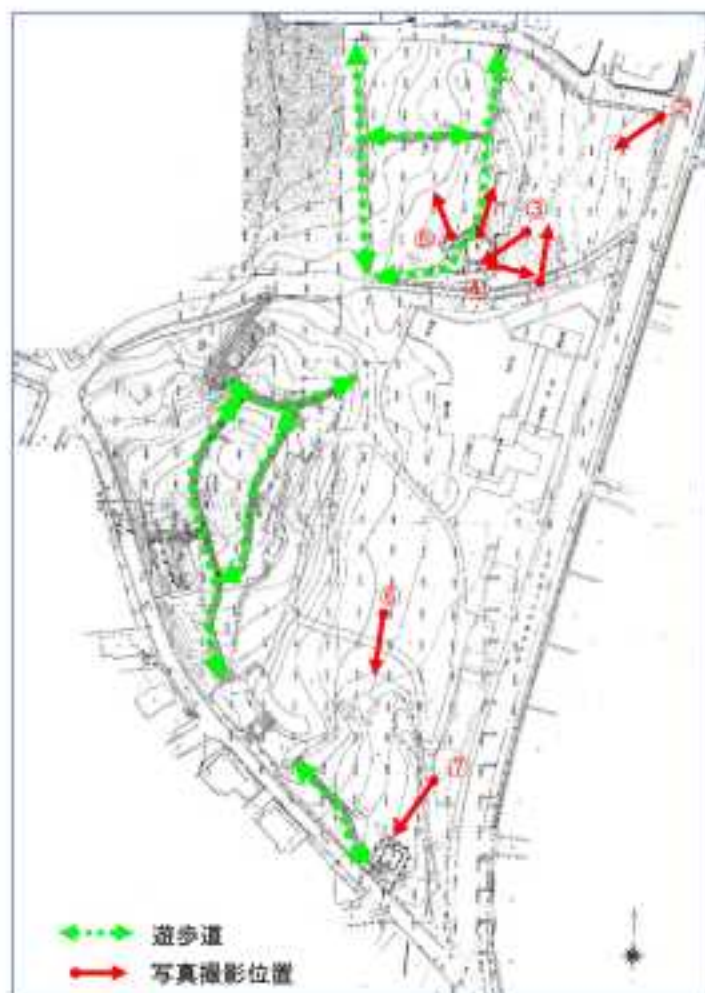


図 - 昭和 62 年 (1987) 遊歩道整備位置図

【勝入塚周辺の地形】



①勝入塚から北方向の園路



②北東角から見た長久手古戦場の地形



③北東樹林から見た勝入塚



④勝入塚から見た樹林地



⑤勝入塚西側の赤松と桜が生育する斜面地

【庄九郎塚周辺の地形】



⑥谷地形（右側が史跡地）



⑦中央の樹林地の奥に庄九郎塚がある

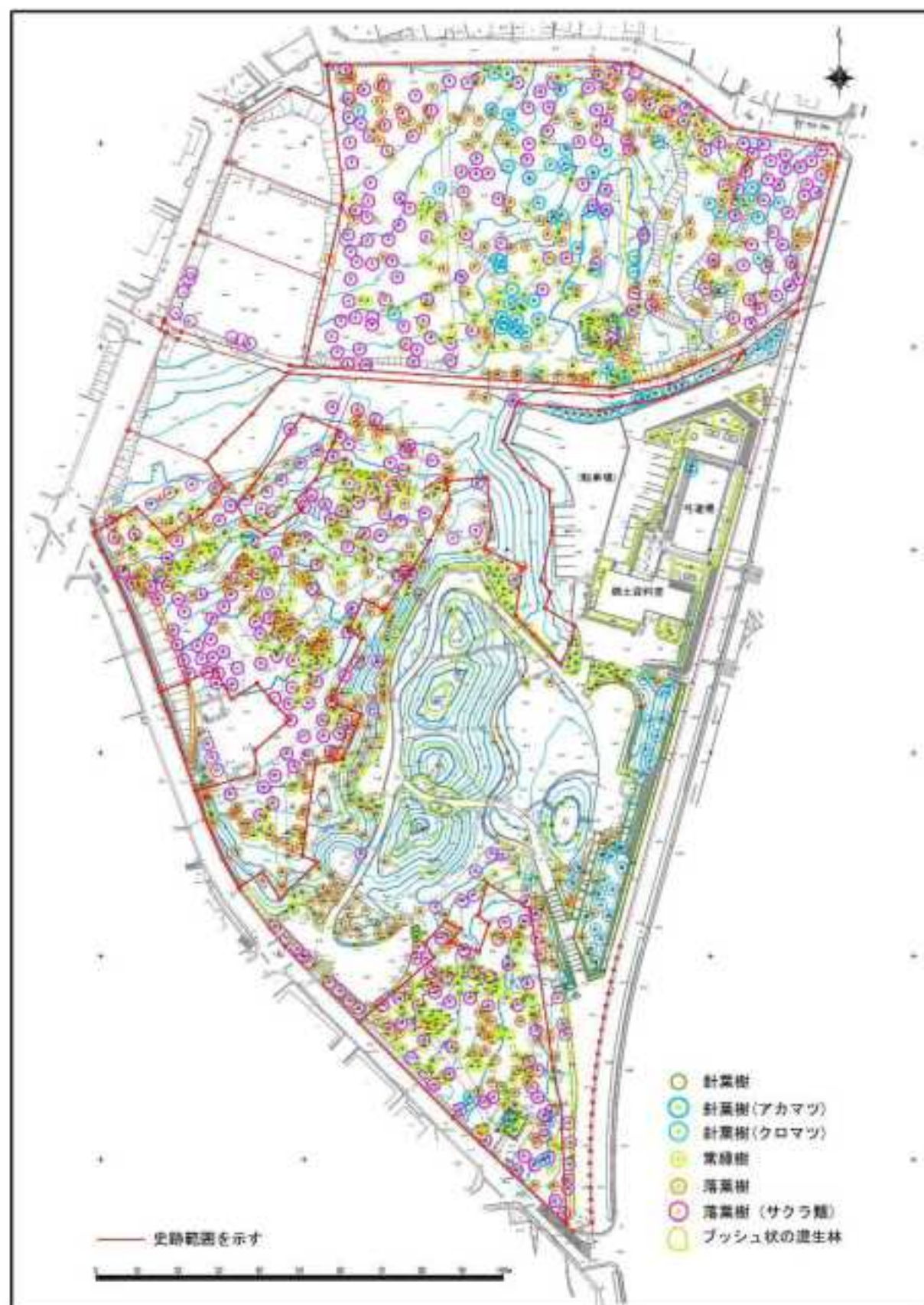


図 - 現況植生図



図 - 勝入塚の現況植生

番号	樹種名	H	C	本立	W	本数	単位	備考
435	クロマツ	6.0	0.82		2.0	1	本	
436	ヒサカキ	1.2			0.5	1	本	
437	ヒサカキ	1.1			0.5	1	本	
438	サツキツツジ	0.2			0.5	1	株	
439	サツキツツジ	0.5			0.2	1	株	
440	イロハモミジ	3.5	0.41		2.5	1	本	
441	ヤマザクラ	4.5	0.48		3.5	1	本	
442	サツキツツジ	0.4			0.6	1	株	
443	ヒサカキ	1.0			0.6	1	本	
444	クロマツ	7.0	0.84		1.5	1	本	
445	ヒノキ	8.5	1.47	2	4.0	1	本	
446	ヒサカキ	3.0	0.42		2.0	1	本	
447	ヒサカキ	3.0	0.28	8	2.0	1	本	
448	ハゼノキ	0.5	0.20		1.5	1	本	
449	ヒサカキ	3.0	0.21		1.5	1	本	
450	イヌツゲ	1.4			0.6	1	本	
451	イロハモミジ	3.0	0.42		2.5	1	本	C=0.4で計算
452	ヒサカキ	2.5	0.17	3	1.0	1	本	
453	ヒサカキ	1.5	0.11	3	1.0	1	本	
454	ヒサカキ	2.0	0.10		1.0	1	本	
455	ヒサカキ	2.0	0.13	2	0.6	1	本	
456	ヒサカキ	2.0	0.09		0.5	1	本	
457	ヒサカキ	3.0	0.18	2	1.2	1	本	
458	アカマツ	12.0	1.60		4.0	1	本	
459	ヒサカキ	4.0	0.48		1.8	1	本	
460	ソメイヨシノ	4.5	0.40		3.5	1	本	



図 - 庄九郎塚の現況植生

番号	樹種名	H	C	本立	W	本数	単位	備考
1180	ヒノキ	14.0	1.88		8.0	1	本	
1184	ヒサカキ	4.0	0.55	2	3.0	1	本	
1185	アカマツ	13.0	1.33		8.0	1	本	
1186	キョウク	6.0	0.70		3.0	1	本	
1187	ヒノキ	13.0	0.94		4.0	1	本	
1188	ソメイヨシノ	11.0	0.86		7.0	1	本	
1189	シャクヤク	5.5	1.12	8	6.0	1	本	
1200	ヒサカキ	4.0	0.23		3.0	1	本	
1201	ヒサカキ	3.5	0.42		3.0	1	本	
1202	ヒサカキ	3.5	0.46	2	3.0	1	本	

③現況土地利用

長久手古戦場は、隣接する「古戦場公園」と土地利用上や機能面でも密接に関わっている。古戦場公園内の「長久手市郷土資料室」は、史跡のガイダンス機能的な役割としても利用されている。駐車場は、郷土資料室を含めた長久手古戦場野外活動施設や古戦場公園の利用者が使用している。

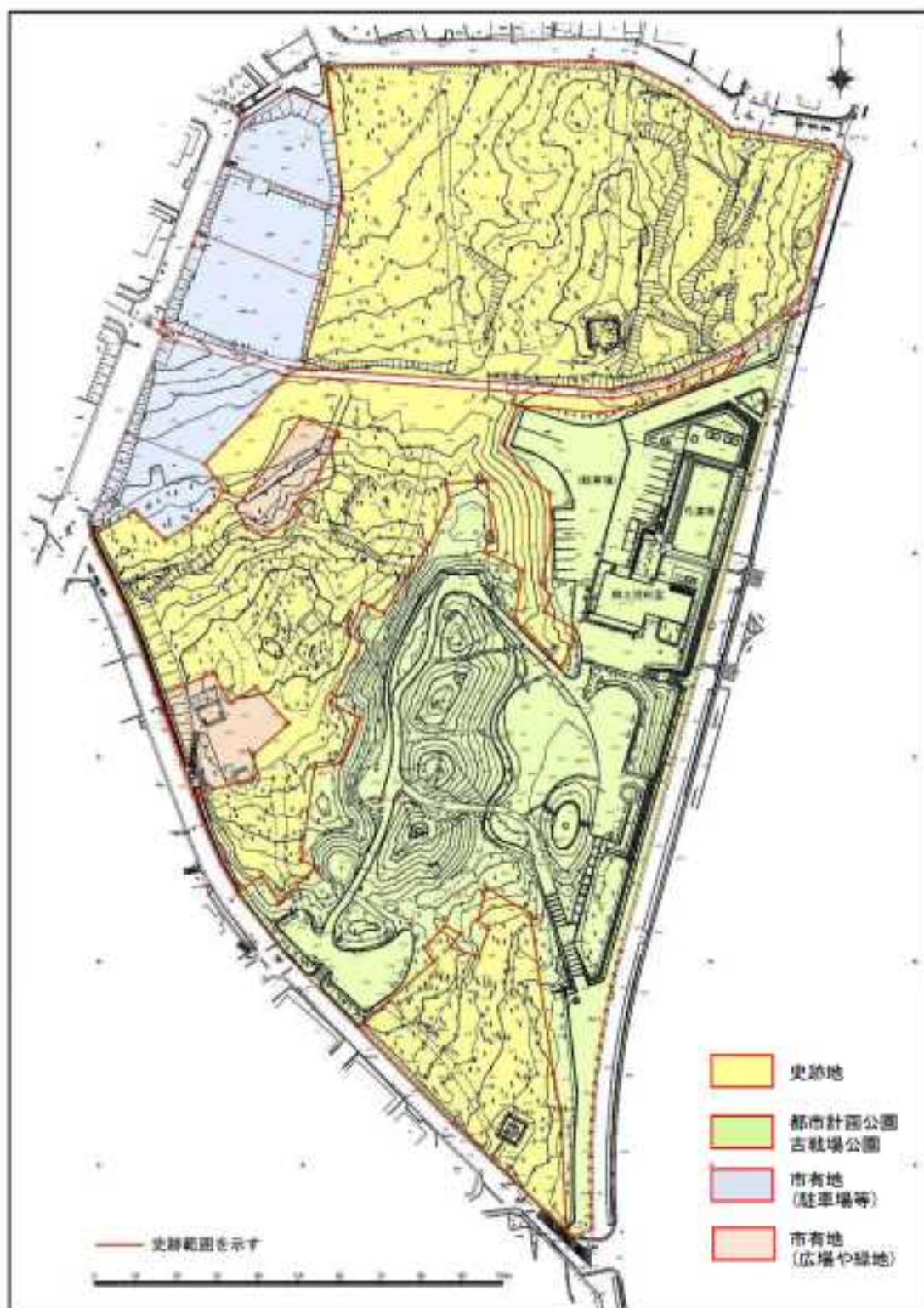


図 - 土地利用区分図

指定地境界周りには柵等もなく、どこからでも入れる状態である。周辺住民による日常の散策などの公園的利用がなされ、史跡見学や歴史学習等を目的とした来訪者は、「長久手市郷土資料室」で長久手合戦の史料やジオラマなどを見学した後、指定地内の石碑などを見学している。

図 1 現況動線図

現況施設配置



図 - 現況施設配置図

施設一覧

表 - 現況施設一覧

位置	番号	名称	外寸(W×H×T)単位はcm	素材	数量	単位	状況	備考
橋入道内		工作物						
	1	石碑		石製	1	式		記念碑
	2	墓石-1	37×44×30	花崗岩製	1	基		用途不明
	3	墓石-2	50×35×42×20	花崗岩製	1	基		用途不明
	4	墓石-3	32×50×30	花崗岩製	1	基		用途不明
	5	解説板	149×84、板(82×75)	SLC製	1	基		石碑解説
	6	継ぎ板	□15×108	鋼製	1	基		
	7	立看板	可動式、24×40	木製	1	基		
	8	碎石舗装		碎石と土	735	m ²		面積は概数
	9	コンクリート舗装	5.5×60、h=8~80	コンクリート製	9.6	m		境界出し土留め
	10	コンクリート壁	□12	コンクリート製	60.0	m		舗装止め
	11	榎木丸太縁石	φ10	榎木製	41.8	m		敷路路明示
	12	榎木柵	φ12、h=54	榎木製、チェーン付	41.8	m		敷路路明示
	13	車止め	φ12.5、h=55	榎木製	43	基		不法駐車対策と進入防止
	14	ベンチ	40×187	合成木材製	3	基		内1基は地中埋没
		排水施設						
	15	集水溝	□60、グレーディング溝	コンクリート製	2	基		
	16	排水管	φ20	強化ビニール製	3	m		道路側へ排水
●電気設備・給水設備・汚水設備、占用施設はない								

位置	番号	名称	外寸(W×H×T)単位はcm	素材	数量	単位	状況	備考
正太郎道内		工作物						
	1	石碑		石製	1	式		記念碑
	2	石碑	柱: 17×15、基石: 35×34	花崗岩製	1	基		
	3	墓石	130×87×67×53	花崗岩製	1	基		門石
	4	墓石	90×70×90	花崗岩製	1	基		門石
	5	石碑	□160、h=85(文字有)	花崗岩製	1	基		
	6	解説板	149×84、板(82×75)	SLC製	1	基		石碑解説
	7	継ぎ板	□15×108	鋼製	1	基		
	8	立看板	可動式、24×40	木製	1	基		
	9	碎石舗装		碎石と土		m ²		面積は概数
	10	石碑	h=210~100	花崗石花崗岩製、花崗		m		
	11	榎木丸太縁石	φ10	榎木製		m		敷路路明示、土留め
	12	榎木柵	φ12、h=54	榎木製、チェーン付		m		敷路路明示
	13	コンクリート舗装	h=5平均	コンクリート製		m ²		
	14	コンクリート壁	□12	コンクリート製		m		
	15	石縁石	不定形	花崗岩等		m		
	16	石階段		花崗岩製	1	基		
	17	榎木ベンチ	座面: 40×150、脚: φ28	榎木製	4	基		
	18	竈	420×420	榎木製	1	基		一部が史跡内
	19	石碑(公園名板)	右柱: 60×70、左柱: 220×210	花崗岩製	1	基		一部が史跡内
	20	舗装溝	93×43	タイル、石材等	1	基		
		排水施設		柱: 鋼管φ160、厚板、ポリカ製				
	20	集水溝	□520	コンクリート製	2	基		
	21	U型側溝	U-180	コンクリート製		m		
		占用施設						
	22	支線(中部電力)			3	箇所		
	23	都市ガス管			3	m		郷土資料室へ
●電気設備・給水設備・汚水設備はない								

現況施設写真

番号は施設一覧表の番号を示す。



〔 1 勝入塚 〕



〔 1 勝入塚 明治の碑 〕



〔 1 勝入塚 明和の碑 〕



〔 8 碎石敷園路と 2・3・4 景石 〕



〔 2 景石-1 〕



〔 3・4 景石-2、-3 〕



〔 5 解説板 〕



〔 6 標柱 〕



〔 7 立看板 〕



〔 11 榎木丸太縁石と 12 榎木柵 〕



〔 14・15 ベンチ 〕



〔 15 集水構と 13 車止め 〕

現況施設写真

番号は施設一覧表の番号を示す。



[1 庄九郎塚]



[1 庄九郎塚 明治の碑]



[1 庄九郎塚 明治の碑と明和の碑]



[2 勝道九兵衛の碑から見た庄九郎塚]



[2 勝道九兵衛の碑]



[3・4 景石と16石階段]



[5 石碑]



[史跡地外の石碑]



[6 解説板]



[7 標柱]



[8 立看板]



[9 砕石舗装と 11 擬木丸太緑石]



[10 石 積]



[11 擬木丸太緑石と 12 擬木柵]



[13 コンクリート舗装 (アスレチック遊具跡)]



[17 擬木ベンチ]



[18 四 阿]



[19 石碑 (公園名板)]



[20 時計塔]



[22 支線 (中部電力) 占用]

史跡地周辺の施設【古戦場公園】



〔長久手市郷土資料室 案内図〕



〔長久手市郷土資料室〕



〔和弓場〕



〔1階展示室〕



〔2階展示室〕



〔庭園と芝生広場〕





〔郷土資料室南側広場〕



〔庄九郎塚北西側広場〕



〔四阿周辺〕



〔古戦場公園南側歩行者入口〕



〔古戦場公園東側入口〕



〔古戦場公園東側歩行者入口〕



〔古戦場公園東側外周〕



〔勝入塚南の里道（東側）〕



〔勝入塚南の里道（西側）〕



〔長久手古戦場西側隣接地（駐車場）〕

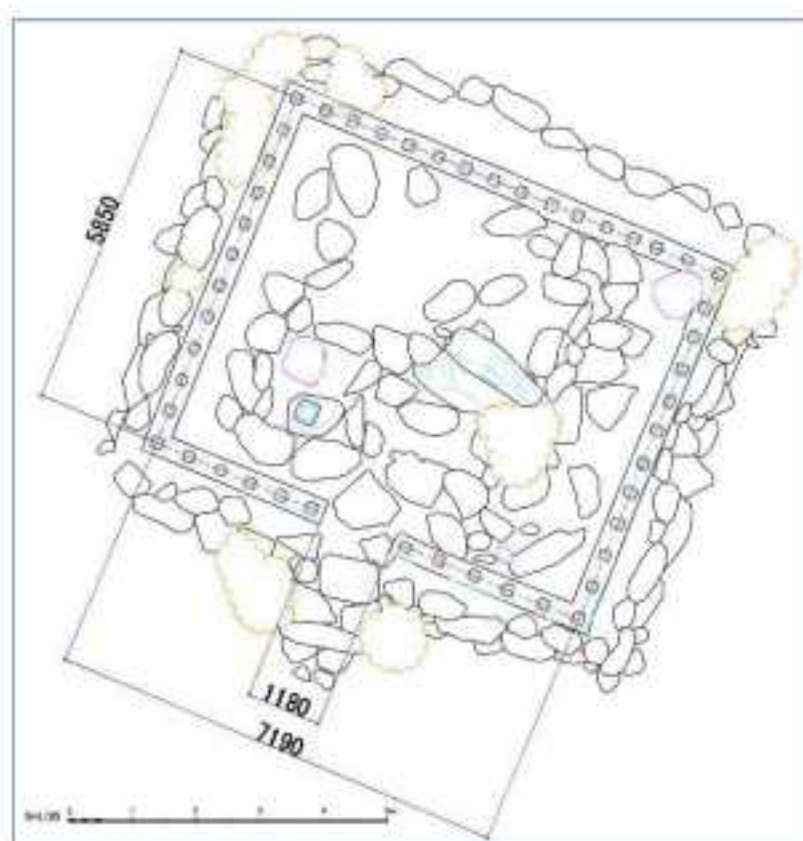
石碑の詳細調査【 勝入塚 】



〔勝入塚 オルソー平面〕

■ 施設の概要

名 称	建設年	規 模	単 位	数 量	備 考
明和の碑	明和8年(1771)建立	17.5cm×17.5cm、h=122cm(花崗岩)	基	1	
明治の碑	明治24年(1891)建立	170cm×35～90cm、h=202cm(安山岩)	基	1	
石碑(石槽内)	上部破損	不明	基	1	
石組面積	明治24年(1891)か	野面石	m ²	73.2	
石槽	明治24年(1891)か	花崗岩石柱28本(一部エンクリ+補修)	m	24.7	



〔平面図〕



〔正面〕



〔右側面〕



〔背面〕



〔左側面〕

【石碑】



【明和の碑】
高さ：122cm。花崗岩

刻銘

池田勝入信輝戦死場



【明和の碑 背面】

刻銘

明和八年辛卯十二月八日造
人見彌右衛門泰
赤林係七郎信之



【明治の碑 正面】
高さ：202cm。安山岩

刻銘

勝入池田公戦死處



【明治の碑 背面】

刻銘

勝入公諱信輝其子紀伊諱之助天正中十二年四月
九日二公俱戰没于長湫先考確軒公鑑其遺蹟或湮
滅也將立石誌之而場損館故不肖輝博續遺志而為
之云 明治二十四年七月 十六世孫池田輝博



【明治の碑 右側面】



【明治の碑 左側面】

【石櫓】(15cm×15cm、H=1m、横鉄筋2段、延基礎:コンクリート製)



【正面】(全て花崗岩製、補修痕なし)



【右側】(3本花崗岩製、9本コンクリート製)



【背面】(全て花崗岩製、3本補修痕あり)



【左側】(全て花崗岩製、補修痕なし、
左から5本目文字刻込有)



【西面のコンクリートによる作り変え状況】



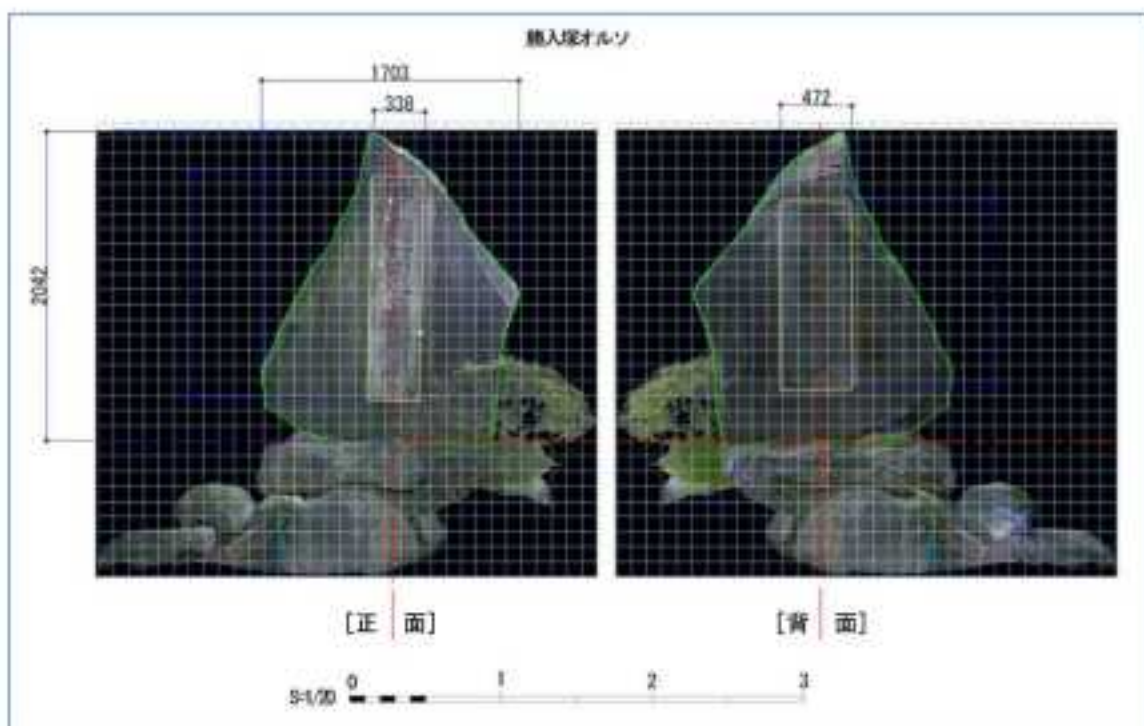
【背面のコーキングによる修復状況】



【左側の石柱に入れられた文字】



【背面左角の赤松がくい込んだ石柱】

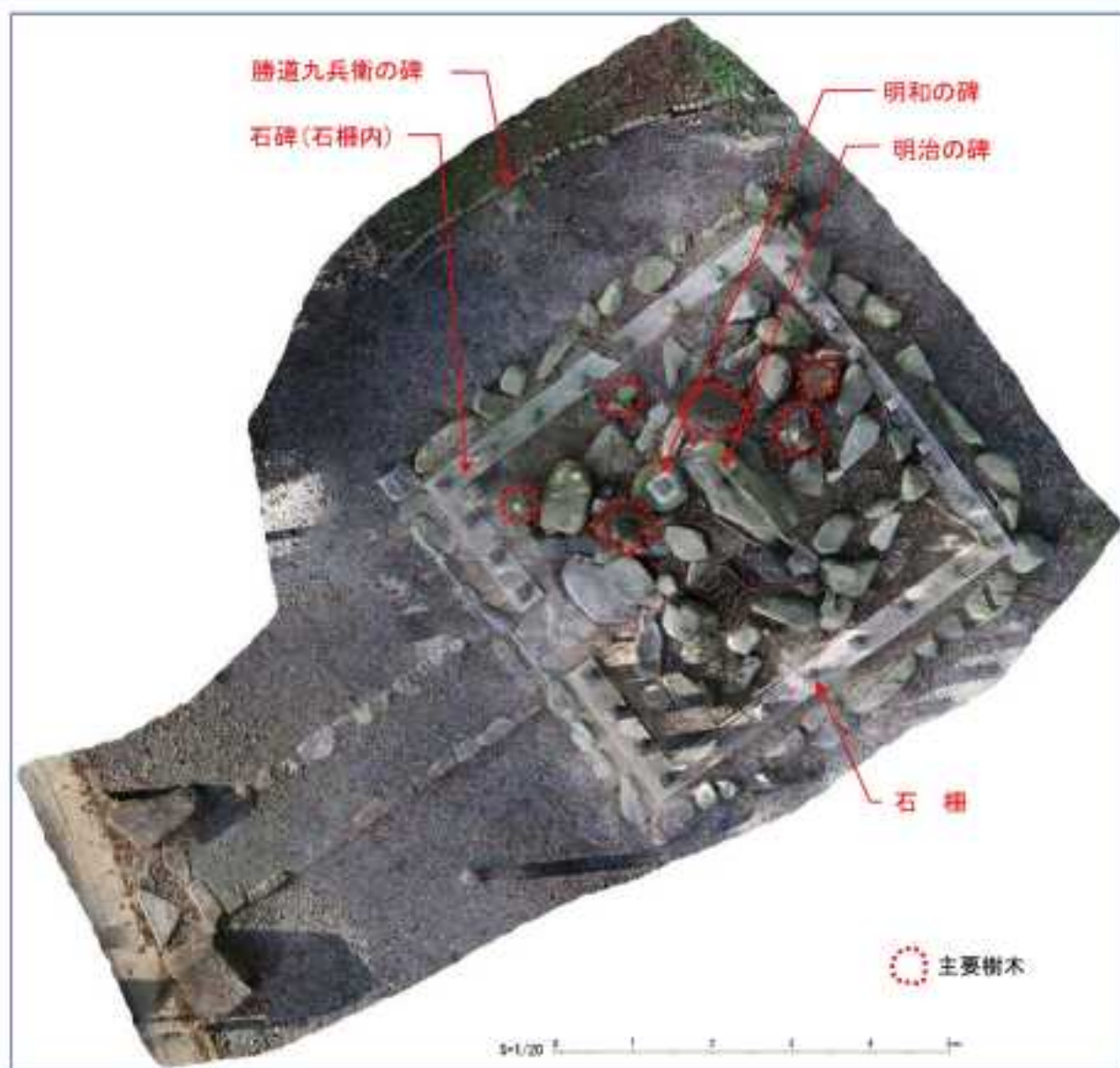


[穂入塚 4方向オルソー立面]



[明和の碑 4方向オルソー立面]

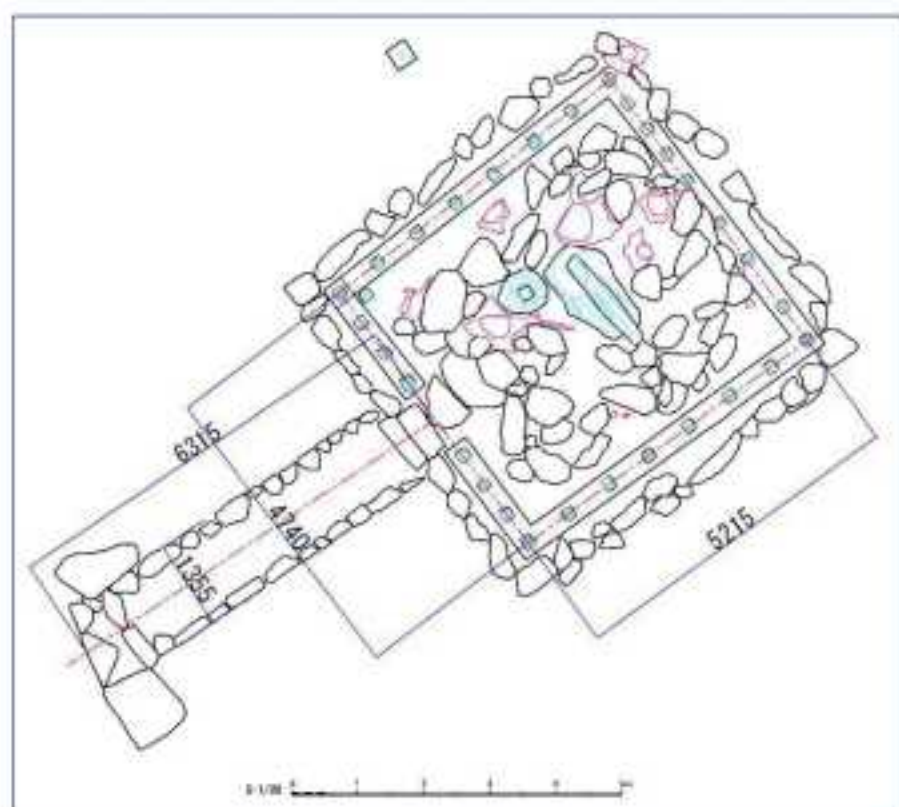
石碑の詳細調査【庄九郎塚】



【庄九郎塚 オルソー平面】

■ 施設の概要

名 称	建設年	規 模	単位	数量	備考
明和の碑	明和8年(1771)建立	15cm×15cm, h=130cm(花崗岩)	基	1	
明治の碑	明治24年(1891)建立	165cm×32cm, h=190cm(安山岩)	基	1	
勝道九兵衛の碑	昭和16年(1937)建立	17cm×15cm, h=140cm(花崗岩)	基	1	
石碑(石柵内)	不明	16cm×16cm, h=44cm(花崗岩)	基	1	
石組面積	明治24年(1891)か	野面石	m ²	40.5	
石柵	明治24年(1891)か	花崗岩石柱28本(一部コンクリート補修)	m	19.0	



【平面図】



【正面】



【右側面】



【背面】



【左側面】



【明和の碑 正面】
高さ：130cm。花崗岩

刻銘

池田紀伊守之助戦死塔



【明和の碑 背面】

刻銘

明和八年卯十二月八日造
人見彌右衛門李
赤林孫七郎信之



【明治の碑 正面】
高さ：190cm。安山岩

刻銘

紀伊守池田公戦死寃
明治廿四年侯爵池田輝博建立



【明治の碑 背面】（文字なし）



【明治の碑 右側面】



【明治の碑 左側面】



【勝道九兵衛の碑 正面】
高さ：104cm、花崗岩

刻銘

勝道九兵衛秀胤討死一之墓



【勝道九兵衛の碑 右側】

刻銘

池田一族 天正十二年四月九日戦死



【勝道九兵衛の碑 背面】

刻銘

昭和十六年三月十一日
後継 遠藤萬六建立 名古屋市
西区江西町三ノ三四



【勝道九兵衛の碑 左側】

刻銘

後援 長瀬 山田 銅一



【石棺内の碑】

刻銘

侯爵 池田

※この碑は、字鴉ヶ畑間の山林にあったが、区画整理事業のため、昭和57年、この地に移された。

【石柵】(15cm×15cm、H=1m、横鉄筋2段、延基礎コンクリート製)



【正面】(全て花崗岩製、3本補修痕あり)



【右側】(8本花崗岩製、内2本コンクリート補修、
4本コーキングによる補修痕あり)



【左側】(花崗岩製、1本コーキングによる補修痕あり)



【背面】(花崗岩製、内1本コンクリート補修、
1本コーキングによる補修痕あり)

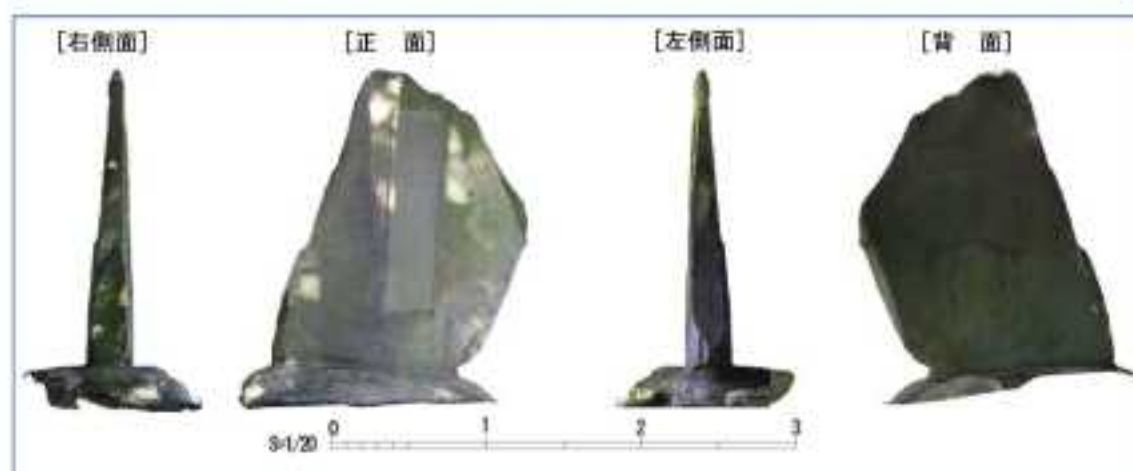
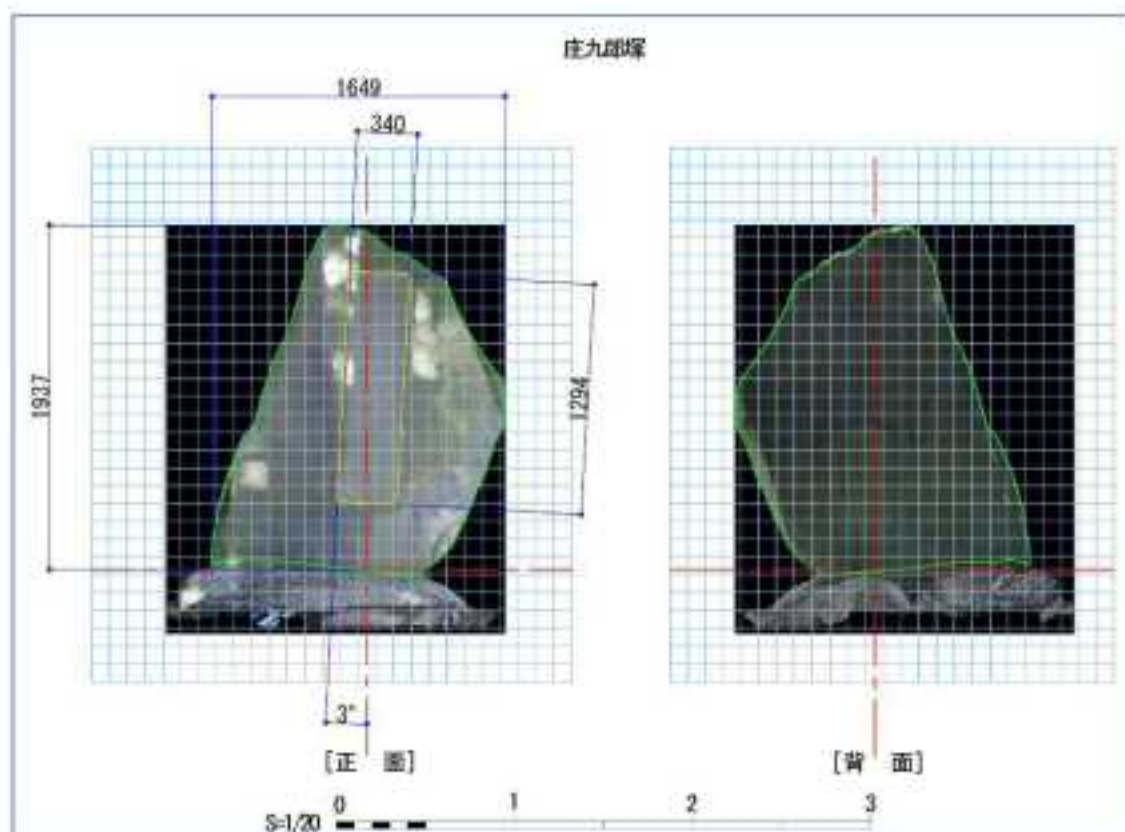


【コンクリートによる補修】

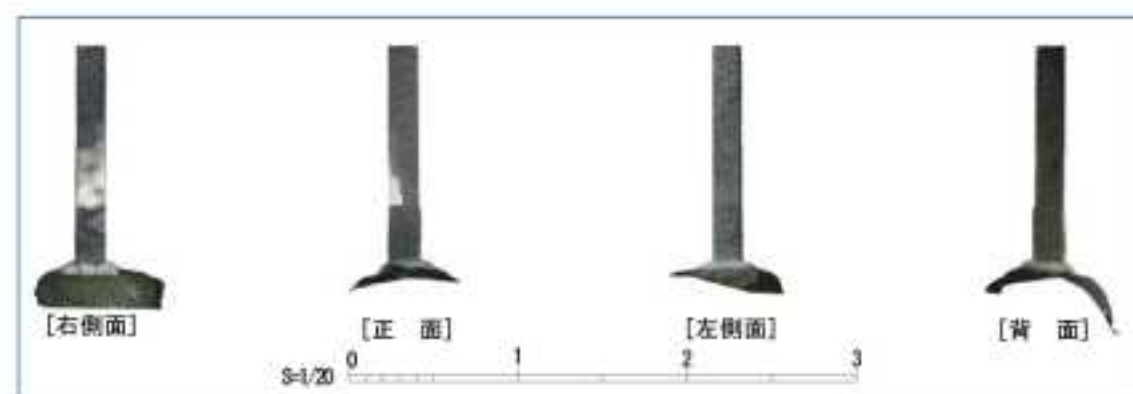


【コーキングによる補修】





[庄九郎塚 4方向オルソー立面]



[明和の碑 4方向オルソー立面]

4 史跡長久手古戦場と周辺環境

(1) 自然環境

① 現況地形・地質

①-1 地形

長久手市は、尾張丘陵と尾張平野が接する地点に位置するため、その地形は複雑で、河川に沿って広がる平地に、起伏に富んだ丘陵が入り組んだ地形となっており、全体に、南東に高く西北に低い地形で、南東部の最高点の標高約 184m、西北部の最低点で標高約 43mとなっている。

長久手古戦場は南西から北東へ延びる尾根を中心とした丘陵地形で、標高 76.6m から 63.3m の高低差があり、複雑な尾根や谷で構成されている。指定地は合戦当時の地形が現存しているものと考えられる。

①-2 地質

長久手市の地質は、中・古生代の岩盤に中新世以後の粘土層・砂礫層・夾炭層がのっている。長久手では、岩木（亜炭）の採掘は、近世から始まり、明治中期から昭和にかけて活況を呈したが、昭和 30 年代には廃絶した。

指定地の地質は、土台となる基盤岩類の上に堆積した鮮新統の地層（瀬戸層群）の矢田川層の最下部の主に中礫層からなる砂礫層を主体とし、砂層とシルト層を挟有し、ときに凝灰岩層を含む水野砂礫相西部に位置するため、礫が少なく砂が多くなり、細礫層やシルト層を含む砂質の層が多い。



② 植 生

長久手市の丘陵地帯の植生は、地質が砂礫層を含む風化の激しい地質であり、表面は酸性の貧栄養土に覆われていたため、瘦地に強く、近世に窯業燃料として利用価値の高い松が丘陵を覆っていた。しかし、松山は保水力が弱く、松にかかった雨水が田畑に流入すると土地が痩せ収量が減少するため、明和年間（1764～1772年）以降、松林から雑木林への転換が図られ、溜池の背後は砂留林として立入りを禁止したため、松と照葉樹の混在する雑木林となっていた。

指定地が属する中央丘陵の植生は、太平洋戦争期の人為的な伐採と昭和34年（1959）の伊勢湾台風により大きな打撃を受けたため、現在の植生は、人為的なものを含め、ほとんどがそれ以降に形成されたものである。

環境省自然環境局生物多様センターの植生図によると、長久手古戦場・御旗山・景行天皇社・色金山などの自然が残されたところはいずれも、ケネザサーコナラ群集となっている。



図 - 環境省自然環境局生物多様センター 植生図より
 [第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査(2008年度調査)]

※ケネザサーコナラ群集とは、ヤブツバキクラス域代償植生区分中の群集であり、コナラが優占し、リョウブ、アセビ、ツルアリドシ、コジイ等で識別される落葉広葉樹二次林。主に標高約50～200mの三河山地辺縁、尾張丘陵に広く分布する。カナメモチーコジイ群集の代償植生として位置づけられ、アベマキーコナラ群集とはアベマキを欠き、アカマツが混生することがあり、リョウブ、アセビ、コジイ等のカナメモチーコジイ群集の識別種を欠くことで区分したが、アベマキーコナラ群集との相違は明瞭ではない。高木層、亜高木層にはコナラが優占する他、アカマツ、リョウブ、アラカシ、ソヨゴ、ヤマザクラ等が混生し、低木層にはヒサカキ、ヤブツバキ、サカキ、アセビ、モチツツジ、ネジキ等が生育する。草本層は時にネザサが優占し、ツルアリドシ、テイカカズラ、ヒイラギ、シシガシラ、ベニシダ等が生育する。

(2) 社会環境

①-1 現況土地利用

長久手古戦場、武蔵塚

- 長久手古戦場周辺は、リニモ長久手古戦場駅、また県道力石名古屋線に近く交通の利便性の高い場所に立地し、周辺部はほとんどが住宅地となっている。また、平成28年12月には大型商業施設「イオンモール長久手」がオープンするなど、今後ますます指定地への利用者の増加が考えられる。
- 西側に隣接して「古戦場公園」(面積:1.13ha)があり、指定地である長久手古戦場と一体的な利用がされている。
- 武蔵塚周辺も長久手古戦場と同様、住宅地が多いが一部畑も残っている。西側は、都市計画道路長東線に接しリニモが見えるなど見晴らしの良い場所となっている。



図 - 長久手古戦場、武蔵塚 現況土地利用図



附 御旗山

- 富士浅間社敷地内にあり、杉などの樹林に囲まれた中にある。周辺はほとんどが住宅地となっている。
- 周辺部が土地区画整理事業により宅地化された中で、残された貴重な樹林地となっている。周辺部との比高差は 18.5mと飛びぬけて高く、長久手合戦時は、徳川家康が山頂に金扇の馬標を立てた場所として有名である。現在は山頂にある石碑や富士社からは、樹木が生い茂り周辺部の景色はほとんど見られなくなっている。



図 - 附 御旗山 現況土地利用図

附 首塚、色金山

- 首塚周辺は、昔の面影を残す岩作旧街道沿いにあり、古い町並みも残っている。
- 色金山は、色金山歴史公園内の最も高い位置にあり、周辺には木製の展望テラスが設けられ、長久手市内が一望できる場所として多くの利用者が訪れている。



図 - 附 色金山 現況土地利用図

② 関連文化財

長久手市には、長久手合戦に関わる文化財として、国指定文化財「長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山」を始め、市指定文化財「長久手城跡」「堀久太郎秀政本陣地跡」「木下勘解由塚」などがある。また、合戦に関する文献を所蔵する色金山麓の「安昌寺」や家康奉納木太刀を所蔵する「景行天皇社」等がある。他には、昭和14年当時は国指定史跡であったが、昭和40年に指定解除された「鑑掛松」(現在は4代目の松が植えられている)や「血の池公園」(指定当初の城屋敷九十番ノ二付近につくられた公園)がある。



長久手城跡（市指定文化財）

城屋敷地内の加藤太郎右衛門忠景の居城跡。『寛文村々覚書』に、「古城跡 先年、加藤太郎右衛門居城之田、今ハ百姓屋敷ニ成ル」とある。加藤太郎右衛門は、家康方の大名丹羽氏次の姉婿にあたり、長久手合戦の折は、丹羽氏の居城岩崎城（現日進市岩崎）で、氏次の城代、弟氏重を助けたが、四月九日未明、戦死した。居城跡は廃城後荒れ、山林となり残ったが、区画整理事業のため整地され、現在の石組みとなった。



図 - 長久手城の地形[長久手町教育委員会
長久手町郷土史研究会『昭和54年度郷
土資料・文化財調査研究報告書』より]



堀久太郎秀政本陣跡（市指定文化財）

秀吉方岡崎別働隊の軍監堀秀政が、松ヶ根の戦いで本陣を布いた所である。堀秀政は白山林の戦いで勝利した榊原康政、大須賀康高ら徳川家康方の追撃隊を打ち破った。現在、中央図書館北の松ヶ根公園内に石碑と解説板が設けられている。



木下勘解由塚（市指定文化財）

白山林の戦いで馬を失くし敗走してきた総大将三好信吉は、木下勘解由利国が自分の馬を秀次に与えて逃げさせ、追ってきた徳川勢と奮戦し、兄の木下助左衛門祐久と共にこの地で戦死した。現在は、その場所に石碑が建てられている。（昭和54年（1979）建立）



鎧掛松、血の池公園

鎧掛松の近くに、以前池（血の池）があり長久手合戦の時、諸軍勢が手で水をすくって飲んだといわれ、また、血の染まった刀や槍を洗ったともいわれている。この池で刀や槍を洗う際に、武将が鎧を掛けたといわれる「鎧掛けの松」があった。現在は、4代目の松が植えられている。（昭和40年に指定解除された）



景行天皇社

長湫村の氏神で、社伝によれば承和4年（837）の創建で、日本武尊の父、景行天皇を祀っている。長久手合戦の折、徳川家康と織田信雄が「御祈禱料鳥目貳拾貫文」で戦勝祈願したとされる社である。後に、家康は当地での戦勝を心に留め、天正12年（1584）9月、「小牧山より参州江御帰陣之節御参詣、御太刀鳥目貳拾貫文」を神前に供えたのをはじめ、慶長9年（1604）、元和8年（1622）にも同様に、木太刀と銭を奉納した。



安昌寺

曹洞宗赤津雲興寺末。創建は明らかではないが、天正13年（1585）丹羽氏次が田地を寄付して再興したと伝えられる。その再興開山の雲山和尚が、長久手合戦の折、戦死した人々を手厚く供養したというので、後年、尾張藩主を初め、多くの藩士が寺を訪れ、合戦にまつわる各種の書き付けを残した。



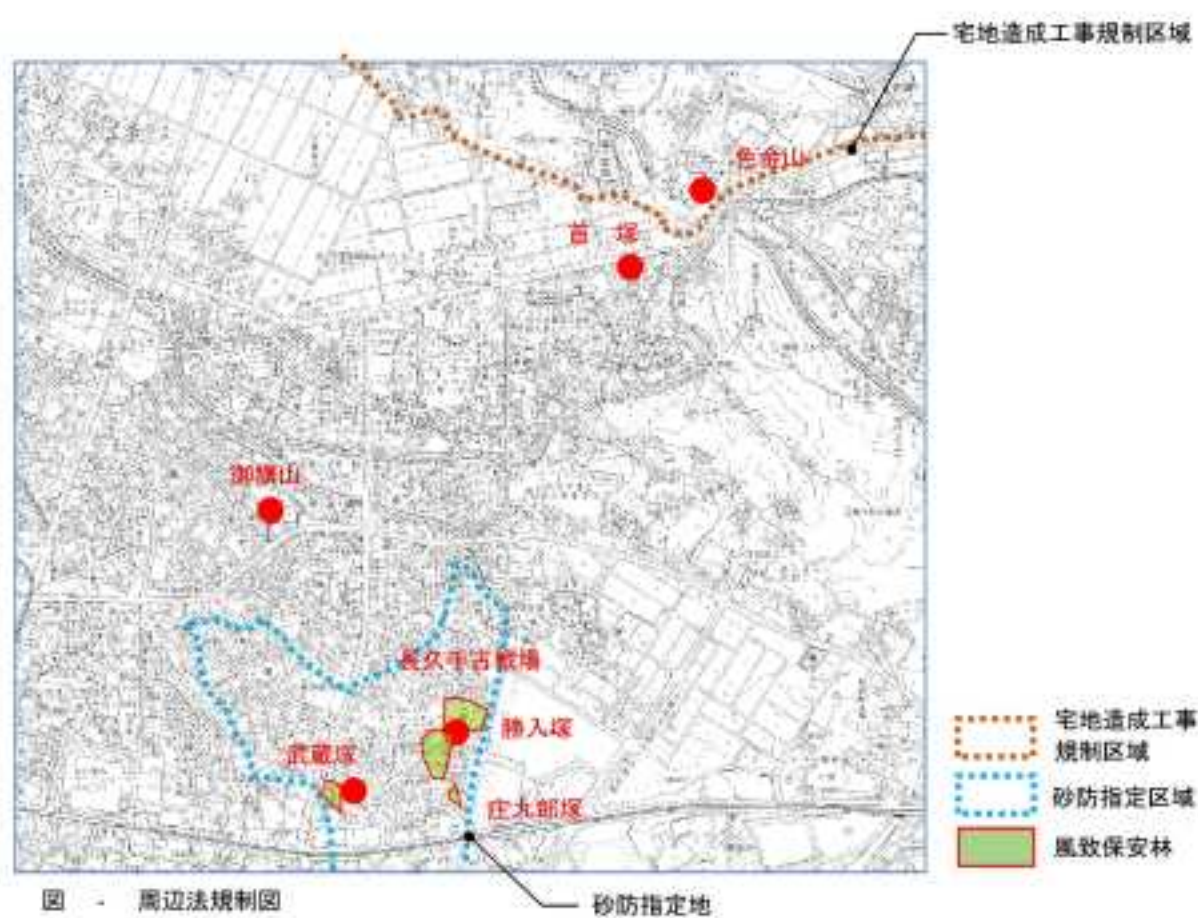
(3) 法規制等

計画地に関わる法規制は、文化財保護法（史跡名勝天然記念物）・森林法（風致保安林）・砂防法・都市計画法（第一種低層住宅専用地域等）・宅地造成工事等規制法などがある。

下表は、各箇所に関する法規制一覧である。

名 称	文化財保護法	森林法	砂防法	都市計画法	宅地造成工事等規制法
長久平古戦場	史跡名勝天然記念物	風致保安林	砂防指定地	第一種低層住居専用地域	—
武蔵塚	史跡名勝天然記念物	風致保安林	砂防指定地	第一種住居地域	—
附 御旗山	史跡名勝天然記念物	—	—	第一種低層住居専用地域	—
附 首塚	史跡名勝天然記念物	—	—	第一種住居地域	—
附 色金山	史跡名勝天然記念物	—	—	市街化調整区域	宅地造成工事規制区域





第3章 史跡長久手古戦場の本質的価値

1 史跡長久手古戦場の本質的価値

長久手古戦場は、羽柴（後の豊臣）秀吉と徳川家康が、たった一度直接対決した「小牧・長久手の戦い」において、最大の戦場が行われた古戦場であり、家康の武名を高め、その後の徳川幕府成立への足掛かりとなった合戦史跡として重要な位置づけがされてきた。江戸時代後期の歴史家である頼山陽が著した「日本外史」においても、小牧・長久手の戦いに高い評価をしている。家康が実際の戦いで負けなかったことによって、その後の秀吉政権下でも家康が秀吉に屈服したわけではなかったことに目をつけ、秀吉死後、家康の政権奪取が可能になった事実を重く見たものと思われる。

また、合戦後の江戸時代には、尾張藩主をはじめ、多くの尾張藩士も度々古戦場や安昌寺を訪問するなどの記録が残っている。そして、この古戦場をしのび尾張藩士や池田家子孫等による石標・顕彰碑が建設されるなど合戦後も大切に保護されてきた場所でもある。

このような歴史に名高い「古戦場」であり、江戸時代以降に建てられた多くの「古戦場」を示す碑が残されている場所であるということで、昭和14年（1939）9月7日に史蹟名勝天然紀念物保存法第一条により、「長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山」が国史跡指定をされた。その後、土地形状の著しい改変により城屋敷は、昭和40年（1965）に指定を解除されたが、長久手古戦場をはじめとしたその他の史跡は、地元有志、市関係部局等による手厚い管理がされてきた。

このような歴史的事実と長年に渡る保護の歴史を鑑み、史跡長久手古戦場の本質的価値を以下のように考える。

- (1) 天正12年（1584）小牧・長久手の戦いの主戦場にして激戦地点であったという事実と、古戦場をしのばせる**地形**が残されていること。
- (2) 指定地内に残された樹木は、過去に自然災害にあい大きな被害を受けたが、現在は回復し、合戦当時に近い松やコナラを中心とした**雑木林の景観**が見られること。
- (3) 「古戦場」として江戸時代から現在に至るまで保存、顕彰が行われ、良好な状態で**記念碑や顕彰碑**が残されていること。

2 史跡長久手古戦場の再評価

史跡長久手古戦場は、合戦当時の地形や雑木林の景観、江戸時代や明治時代に作られた顕彰碑等の存在により国指定史跡地となっているが、周辺環境は史跡指定当時と大きく変わった。東部丘陵線（リニモ）の開業や周辺の住宅地化、東側の大型商業施設の立地と、急速な都市化が進んできており、来訪者の増加が見込まれる。一方、隣接する史跡のガイダンス機能的な役割を果たす「長久手市郷土資料室」は、施設の老朽化や手狭さ等から充実した役割を担いきれていない。

また、長久手市においては「第5次長久手市総合計画」の主要プロジェクトの一つである「リニモテラス構想」をはじめとした計画等の中で、まちづくりにおいて、「長久手古戦場」や「古戦場公園」との連携が謳われており、歴史文化を継承し、郷土の歴史を学び親しむ場として再整備を行うとされている。

このように周辺の土地利用環境の変化や市の将来像においても、指定地は重要な位置となってきた。文化財としての重要性はさることながら、将来の長久手市のまちづくりでも重要な場所として位置づけられてきた。このような中で、史跡としての価値をあらためて見直し、指定地だけではなく隣接する古戦場公園を含んだ全体を再整備する必要が出てきた。

3 構成要素の特定

史跡に関わる様々な要素を、下表のとおり「史跡を構成する要素」と「史跡の周辺環境を構成する要素」に分類する。

「史跡を構成する要素」は、史跡の「本質的価値を構成する要素」「保存・活用に有効な要素」「管理上調整が必要な要素」に分類する。「史跡の周辺環境を構成する要素」は、史跡指定地外を対象とし、「本質的価値に密接に関係する要素」「保存・活用に資する要素」「本質的価値に関係しない要素」に分ける。

「史跡の周辺環境を構成する要素」を史跡の価値との関連で分類するのは、現在「長久手古戦場」と隣接する「古戦場公園」の利用状況や、公園に設けられている「長久手市郷土資料室」が史跡のガイダンス機能を持った施設として利用されているためである。

利用者は史跡と公園を一体的に捉え、利用しているのが現状であることによる。

◆ 史跡を構成する要素

分 類	本質的価値を構成する要素	保存・活用に有効な要素	管理上調整が必要な要素
史跡を構成する要素	地形 樹木 石碑等 勝入塚 明和の碑 明治の碑 石碑を取巻く 石櫓、石組み 庄九郎塚 明和の碑 明治の碑 石碑を取巻く 石櫓、石組み 埋蔵文化財（推定）	園路 石碑（公園名板その1） ベンチ 長石	看板類 時計塔 車止め 植栽・樹木 占用施設（電気支線、ガス管）

◆ 史跡の周辺環境を構成する要素

分 類	本質的価値に密接に関係する要素	保存・活用に資する要素	本質的価値に関係しない要素
史跡の周辺環境を構成する要素	長久手古戦場野外活動施設（長久手市郷土資料室）	緑地 駐車場 長久手古戦場野外活動施設（その他施設） 石碑（公園名板その2）	縮景（庭園） 工作物（石積、四阿、ベンチ等） 地下埋設物（給水管、ガス管、污水管、防火水槽）

(1) 史跡を構成する要素

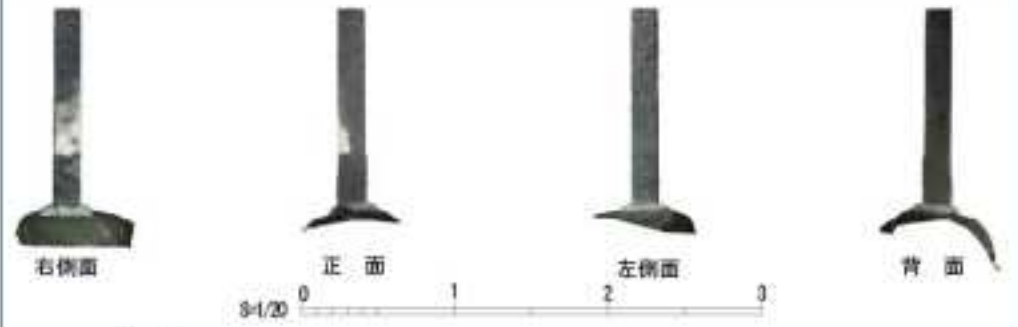
①本質的価値を構成する要素

分類	名 称	構 成 要 素
指定地内	地 形	● 南から北に伸びる緩やかな尾根線と、その尾根から発生する細かな谷や小尾根から構成される起伏に富んだ穏やかな地形。
		    

分類	名 称	構 成 要 素																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
指定地内	樹 木	● 左図の屏風の下部に描かれている樹木は、松や樹名ははっきりしないが落葉樹と思われる。また上部に描かれているのは松の幼木である。現在の長久手古戦場内にも同様にアカマツ（41本）、クロマツ（35本）、コナラ（99本）が見られ、植樹されたソメイヨシノ（304本）も多くある。 ● 合戦当時になかったソメイヨシノやヒマラヤシーダーなどの園芸種や外来種も見られ、史跡地にふさわしくないものもある。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>樹 種 名</th><th>H</th><th>C</th><th>本 立</th><th>W</th><th>本 数</th><th>単 位</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>アカマツ</td><td>12.0</td><td>1.90</td><td></td><td>4.0</td><td>41</td><td>本</td></tr> <tr><td>アカメカシワ</td><td>4.0</td><td>1.13</td><td></td><td>4.0</td><td>12</td><td>本</td></tr> <tr><td>アズキノナシ</td><td>7.0</td><td>0.42</td><td></td><td>3.0</td><td>3</td><td>本</td></tr> <tr><td>アベマキ</td><td>17.0</td><td>1.38</td><td></td><td>13.0</td><td>3</td><td>本</td></tr> <tr><td>アウカシ</td><td>7.0</td><td>1.75</td><td>R</td><td>5.0</td><td>18</td><td>本</td></tr> <tr><td>イタヤシ</td><td>7.0</td><td>0.94</td><td></td><td>2.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>イタヤシ</td><td>3.0</td><td>0.39</td><td></td><td>3.0</td><td>8</td><td>本</td></tr> <tr><td>イボタノキ</td><td>3.0</td><td>0.70</td><td>T</td><td>3.0</td><td>4</td><td>本</td></tr> <tr><td>イロハモミジ</td><td>8.0</td><td>1.30</td><td></td><td>7.0</td><td>40</td><td>本</td></tr> <tr><td>エロノキ</td><td>7.0</td><td>0.90</td><td></td><td>4.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>エノキ</td><td>11.0</td><td>1.18</td><td></td><td>6.0</td><td>21</td><td>本</td></tr> <tr><td>カキノキ</td><td>7.0</td><td>0.94</td><td></td><td>7.0</td><td>7</td><td>本</td></tr> <tr><td>カクレミノ</td><td>7.0</td><td>0.97</td><td>S</td><td>3.0</td><td>41</td><td>本</td></tr> <tr><td>ガマズミ</td><td>1.0</td><td></td><td></td><td>1.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ガマツカ</td><td>4.0</td><td>0.25</td><td>S</td><td>3.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>クサキ</td><td>8.0</td><td>0.35</td><td></td><td>4.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>クスノキ</td><td>11.0</td><td>1.93</td><td></td><td>8.0</td><td>11</td><td>本</td></tr> <tr><td>クサナシ</td><td>8.0</td><td></td><td></td><td>0.7</td><td>27</td><td>本</td></tr> <tr><td>クスギ</td><td>13.0</td><td>1.30</td><td></td><td>6.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>クロガネモチ</td><td>8.0</td><td>1.31</td><td></td><td>6.0</td><td>28</td><td>本</td></tr> <tr><td>クロマツ</td><td>18.0</td><td>2.10</td><td>S</td><td>6.0</td><td>35</td><td>本</td></tr> <tr><td>楠</td><td>11.0</td><td>0.90</td><td></td><td>8.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>コナラ</td><td>18.0</td><td>2.70</td><td></td><td>25.0</td><td>99</td><td>本</td></tr> <tr><td>サカキ</td><td>7.0</td><td>0.51</td><td></td><td>6.0</td><td>7</td><td>本</td></tr> <tr><td>サツキアフリ</td><td>8.0</td><td></td><td></td><td>0.8</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>シヤンソング</td><td>5.0</td><td>1.12</td><td>R</td><td>4.0</td><td>7</td><td>本</td></tr> </tbody> </table> 樹種：ヒサカキ・ハゼノキ・ネズミモチ・クロガネモチ・アカメカシワ・ソメイヨシノ・クロマツ・カクレミノ・シヤンソング・アウカシ・サカキ <table border="1"> <tbody> <tr><td>シュロ</td><td>8.0</td><td>0.40</td><td></td><td>2.0</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>シロカシ</td><td>7.0</td><td>1.23</td><td></td><td>6.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>シロシ</td><td>8.0</td><td>1.20</td><td></td><td>8.0</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>ソメイヨシノ</td><td>12.0</td><td>0.97</td><td></td><td>13.0</td><td>304</td><td></td></tr> <tr><td>タフノキ</td><td>8.0</td><td>1.24</td><td></td><td>6.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>タマアザミ</td><td>0.6</td><td></td><td></td><td>0.8</td><td>30</td><td>本</td></tr> <tr><td>タンナサワフタギ</td><td>4.0</td><td>0.49</td><td>S</td><td>3.0</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヤブノキ</td><td>2.0</td><td></td><td></td><td>1.8</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヤブヤブ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヤブミモリ</td><td>3.0</td><td>0.94</td><td>S</td><td>3.0</td><td>84</td><td>本</td></tr> <tr><td>ハゼノキ</td><td>4.0</td><td>0.77</td><td>S</td><td>3.0</td><td>88</td><td>本</td></tr> <tr><td>ハナノキ</td><td>8.0</td><td>0.75</td><td></td><td>3.0</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>ハナノキ</td><td>8.0</td><td>0.94</td><td></td><td>2.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヒサカキ</td><td>4.0</td><td>1.50</td><td></td><td>2.0</td><td>181</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヒトツバキ</td><td>8.0</td><td>0.90</td><td></td><td>7.0</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヒメノキ</td><td>14.0</td><td>1.88</td><td></td><td>8.0</td><td>3</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヒマラヤシーダー</td><td>8.0</td><td>1.18</td><td></td><td>6.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヒメアザミ</td><td>1.0</td><td></td><td></td><td>1.8</td><td>80</td><td>本</td></tr> <tr><td>マメノキ</td><td>3.0</td><td></td><td></td><td>0.4</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>マユ</td><td>2.0</td><td>0.14</td><td>S</td><td>2.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>マンリヤウ</td><td>0.7</td><td></td><td></td><td>0.3</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ミツバハツジ</td><td>0.7</td><td></td><td></td><td>0.2</td><td>2</td><td>本</td></tr> <tr><td>ムクノキ</td><td>13.0</td><td>1.88</td><td></td><td>13.0</td><td>23</td><td>本</td></tr> <tr><td>ムラサキシキブ</td><td>3.0</td><td>1.00</td><td></td><td>2.0</td><td>14</td><td>本</td></tr> <tr><td>モミノキ</td><td>8.0</td><td>0.89</td><td></td><td>5.0</td><td>11</td><td>本</td></tr> <tr><td>モウロウ</td><td>8.0</td><td>0.70</td><td></td><td>9.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヤマブキ</td><td>3.0</td><td>0.42</td><td></td><td>4.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヤマタフ</td><td>3.0</td><td>0.83</td><td></td><td>6.0</td><td>4</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヤマザクラ</td><td>4.0</td><td>0.68</td><td></td><td>3.0</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ヤマツツジ</td><td>1.0</td><td></td><td></td><td>0.8</td><td>1</td><td>本</td></tr> <tr><td>ユキヤナギ</td><td>1.0</td><td></td><td></td><td>0.8</td><td>85</td><td>本</td></tr> </tbody> </table>	樹 種 名	H	C	本 立	W	本 数	単 位	アカマツ	12.0	1.90		4.0	41	本	アカメカシワ	4.0	1.13		4.0	12	本	アズキノナシ	7.0	0.42		3.0	3	本	アベマキ	17.0	1.38		13.0	3	本	アウカシ	7.0	1.75	R	5.0	18	本	イタヤシ	7.0	0.94		2.0	1	本	イタヤシ	3.0	0.39		3.0	8	本	イボタノキ	3.0	0.70	T	3.0	4	本	イロハモミジ	8.0	1.30		7.0	40	本	エロノキ	7.0	0.90		4.0	1	本	エノキ	11.0	1.18		6.0	21	本	カキノキ	7.0	0.94		7.0	7	本	カクレミノ	7.0	0.97	S	3.0	41	本	ガマズミ	1.0			1.0	1	本	ガマツカ	4.0	0.25	S	3.0	1	本	クサキ	8.0	0.35		4.0	1	本	クスノキ	11.0	1.93		8.0	11	本	クサナシ	8.0			0.7	27	本	クスギ	13.0	1.30		6.0	1	本	クロガネモチ	8.0	1.31		6.0	28	本	クロマツ	18.0	2.10	S	6.0	35	本	楠	11.0	0.90		8.0	1	本	コナラ	18.0	2.70		25.0	99	本	サカキ	7.0	0.51		6.0	7	本	サツキアフリ	8.0			0.8	2	本	シヤンソング	5.0	1.12	R	4.0	7	本	シュロ	8.0	0.40		2.0	2	本	シロカシ	7.0	1.23		6.0	1	本	シロシ	8.0	1.20		8.0	2	本	ソメイヨシノ	12.0	0.97		13.0	304		タフノキ	8.0	1.24		6.0	1	本	タマアザミ	0.6			0.8	30	本	タンナサワフタギ	4.0	0.49	S	3.0	2	本	ヤブノキ	2.0			1.8	2	本	ヤブヤブ					20	本	ヤブミモリ	3.0	0.94	S	3.0	84	本	ハゼノキ	4.0	0.77	S	3.0	88	本	ハナノキ	8.0	0.75		3.0	2	本	ハナノキ	8.0	0.94		2.0	1	本	ヒサカキ	4.0	1.50		2.0	181	本	ヒトツバキ	8.0	0.90		7.0	2	本	ヒメノキ	14.0	1.88		8.0	3	本	ヒマラヤシーダー	8.0	1.18		6.0	1	本	ヒメアザミ	1.0			1.8	80	本	マメノキ	3.0			0.4	1	本	マユ	2.0	0.14	S	2.0	1	本	マンリヤウ	0.7			0.3	1	本	ミツバハツジ	0.7			0.2	2	本	ムクノキ	13.0	1.88		13.0	23	本	ムラサキシキブ	3.0	1.00		2.0	14	本	モミノキ	8.0	0.89		5.0	11	本	モウロウ	8.0	0.70		9.0	1	本	ヤマブキ	3.0	0.42		4.0	1	本	ヤマタフ	3.0	0.83		6.0	4	本	ヤマザクラ	4.0	0.68		3.0	1	本	ヤマツツジ	1.0			0.8	1	本	ユキヤナギ	1.0			0.8	85	本
樹 種 名	H	C	本 立	W	本 数	単 位																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
アカマツ	12.0	1.90		4.0	41	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
アカメカシワ	4.0	1.13		4.0	12	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
アズキノナシ	7.0	0.42		3.0	3	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
アベマキ	17.0	1.38		13.0	3	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
アウカシ	7.0	1.75	R	5.0	18	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
イタヤシ	7.0	0.94		2.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
イタヤシ	3.0	0.39		3.0	8	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
イボタノキ	3.0	0.70	T	3.0	4	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
イロハモミジ	8.0	1.30		7.0	40	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
エロノキ	7.0	0.90		4.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
エノキ	11.0	1.18		6.0	21	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
カキノキ	7.0	0.94		7.0	7	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
カクレミノ	7.0	0.97	S	3.0	41	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ガマズミ	1.0			1.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ガマツカ	4.0	0.25	S	3.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
クサキ	8.0	0.35		4.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
クスノキ	11.0	1.93		8.0	11	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
クサナシ	8.0			0.7	27	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
クスギ	13.0	1.30		6.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
クロガネモチ	8.0	1.31		6.0	28	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
クロマツ	18.0	2.10	S	6.0	35	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
楠	11.0	0.90		8.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
コナラ	18.0	2.70		25.0	99	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
サカキ	7.0	0.51		6.0	7	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
サツキアフリ	8.0			0.8	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
シヤンソング	5.0	1.12	R	4.0	7	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
シュロ	8.0	0.40		2.0	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
シロカシ	7.0	1.23		6.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
シロシ	8.0	1.20		8.0	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ソメイヨシノ	12.0	0.97		13.0	304																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
タフノキ	8.0	1.24		6.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
タマアザミ	0.6			0.8	30	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
タンナサワフタギ	4.0	0.49	S	3.0	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヤブノキ	2.0			1.8	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヤブヤブ					20	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヤブミモリ	3.0	0.94	S	3.0	84	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ハゼノキ	4.0	0.77	S	3.0	88	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ハナノキ	8.0	0.75		3.0	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ハナノキ	8.0	0.94		2.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヒサカキ	4.0	1.50		2.0	181	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヒトツバキ	8.0	0.90		7.0	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヒメノキ	14.0	1.88		8.0	3	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヒマラヤシーダー	8.0	1.18		6.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヒメアザミ	1.0			1.8	80	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
マメノキ	3.0			0.4	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
マユ	2.0	0.14	S	2.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
マンリヤウ	0.7			0.3	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ミツバハツジ	0.7			0.2	2	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ムクノキ	13.0	1.88		13.0	23	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ムラサキシキブ	3.0	1.00		2.0	14	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
モミノキ	8.0	0.89		5.0	11	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
モウロウ	8.0	0.70		9.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヤマブキ	3.0	0.42		4.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヤマタフ	3.0	0.83		6.0	4	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヤマザクラ	4.0	0.68		3.0	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ヤマツツジ	1.0			0.8	1	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
ユキヤナギ	1.0			0.8	85	本																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
現況樹木リスト（H28 年度調査）		現況植生図（H28 年度調査）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

分類	名 称	構 成 要 素
指定地内	石 碑 等 勝入塚	● 史跡指定の大きな要素となっている石碑。 ・ 明和の碑－明和 8 年（1771）建立 ・ 明治の碑－明治 24 年（1891）建立 ● 明治の碑は、原因は不明だが、背面に 5 度程度傾いている。 ● 目視できる損傷はないが、将来的に周辺樹木の根が石碑に与える影響が懸念される。
		勝入塚 平面オルソー 
		明和の碑 4 方向オルソー 
		明治の碑 4 方向オルソー 

分類	名 称	構 成 要 素
指定地内	石碑等 勝入塚	● 石碑を囲む石柱 ・ 15cm×15cm×H100cm で花崗岩製とコンクリート製合計 48 本 ・ 鉄筋 2 段の棧 ・ 基礎はコンクリート製布基礎 ● クラックの補修痕やコンクリート製に改修しているものもある。 ● 石柱は劣化が見られる。 ● コンクリート製の基礎は、史跡景観としてふさわしくない。
		 補修痕
		 史跡にそぐわないコンクリート基礎
		● 樹木が石碑をわかりにくくしている。 

分類	名 称	構 成 要 素
指定地内	石 碑 等 庄九郎塚	● 史跡指定の大きな要素となっている石碑。 ・ 明和の碑－明和 8 年（1771）建立 ・ 明治の碑－明治 24 年（1891）建立 ● 目視できる損傷はないが、将来的に周辺樹木の根が石碑に与える影響が懸念される。
		 庄九郎塚 平面オルソー
		 右側面 正 面 左側面 背 面 明和の碑 4 方向オルソー
		 右側面 正 面 左側面 背 面 明治の碑 4 方向オルソー

分類	名 称	構 成 要 素
指定地内	石 碑 等 庄九郎塚	● 勝道九兵衛の碑 ・ 昭和 16 年（1937）建立で史跡指定後に建てられた碑 ・ 17cm×15cm×H140cm で花崗岩製（笠石有） ※この碑は、宇鴫ヶ廻間の山林にあったが、区画整理事業のため、昭和 57 年、この地に移された。 ● 石碑を囲む石柱 ・ 15cm×15cm×H100cm で花崗岩製とコンクリート製合計 29 本 ・ 鉄筋 2 段の棧 ・ 基礎はコンクリート製布基礎 ● クラックの補修痕やコンクリート製に改修しているものもある。 ● 石柱は劣化が見られる。 ● コンクリート製の基礎は、史跡景観としてふさわしくない。 補修痕 史跡にそぐわないコンクリート基礎 ● 樹木が石碑をわかりにくくしている。

②保存・活用に必要な要素

分類	名 称	有効な要素
指定地内	園 路	● 昭和 62 年（1987）に作られた砕石敷き園路が、尾根線上に、石碑を巡るように設けられている。 ・幅員は 2m 程度で、舗装が老朽化している ● 遺構保存や樹木の根茎を傷めないためにも必要なものである。
	石碑 (公園名板 その 1)	● 昭和 62 年（1987）に建立された石材製のもので、史跡地に隣接する長久手市郷土資料室入口から良く見える位置に設けられている。 ・史跡中心部東側史跡境界に設置されている ● 市の観光パンフレットや文化財マップ等によく使用されている。
	ベンチ	● 擬木製と合成木材製ベンチが 6 基設けられている。 ● 老朽化した物や設置位置を検討する必要があるものもある。
	景石 (勝入塚から北に向かう園路と史跡境界の交差する位置にある)	● 設置時期などの由来は不明だが、亀の形をした石造物。



砂利道化した舗装



尾根道に設けられた園路



③管理上調整が必要な要素

分類	名 称	調整が必要な要素
指定地内	看板類	● 史跡地内には、3種類の看板類が設けられている。 ・石碑の解説板 ・標識柱 ・QRコード付き案内板
	時計塔	● 石材とタイルにより作られた時計塔。
	車止め	● コンクリート製の車止め
	樹木・植栽	● 実生の木が成長したものや込みすぎた樹林地が見られる。

分類	名 称	調整が必要な要素
指定地内	樹木・植栽	● 合戦当時にはなかったソメイヨシノが多く植えられている。
		 
		  老木化したものも多い 法面に露出した根茎
		● 合戦時にも生えていた稚木が史跡内にも見られる。
		  クロマツの幼木
		● 石碑への影響が懸念される樹木の根茎。  

分類	名 称	調整が必要な要素
指定地内	占用施設	● 中部電力に支線などの占用施設がある。  ● 史跡地内を横断しているガス管。 

(2) 史跡の周辺環境を構成する要素

①本質的価値に密接に関係する要素

分類	名 称	構 成 要 素
指定 地 外	長久手古戦場野外活動施設（郷土資料室）	●『史跡 長久手古戦場』のガイダンス施設的役割を持つ施設で、長久手合戦400年を記念して昭和60年、史跡地東側、「古戦場公園」内に設けられた。施設の南側には古戦場の位置や地形を縮景という手法で表現した庭園広場が設けられており、市の史跡めぐりの起点として利用されている。 ●1階には「小牧・長久手の戦い」に関するジオラマや長久手合戦に関する資料、2階には棒の手などの民俗資料が展示されている。 ●長久手市郷土史研究会の協力を得て、史跡案内や郷土資料室内の展示解説などのボランティア活動も盛んに行われている。 ●この公園は、『日本の歴史公園100選』※にも選ばれており、毎年4月上旬には「長久手古戦場桜まつり」が開催され、大勢の人でにぎわっている。※都市公園法の制定70周年を記念して、社団法人日本公園緑地協会が『日本の歴史公園100選』に選定し、長久手市から古戦場公園が選ばれた。  規模：延べ面積：477.58㎡ B1:117.93㎡、1F:204.35㎡、2F:155.30㎡ 展示面積 1F:70.00㎡、2F:84.00㎡ 計 154.00㎡ 構造：RC造   史跡地から見た長久手市郷土資料室  「小牧・長久手の戦い」のジオラマ  長久手古戦場桜まつり

②保存活用に資する要素

分類	名 称	構 成 要 素
指定地外	古戦場公園 緑 地	● 史跡地に隣接し来訪者にとっては公園と史跡地は一体のものと見える。   イオン前広場から見た郷土資料室と背後の史跡地内の樹林 
	駐車場	● 古戦場公園内駐車場は、史跡内の見学者の駐車場や駐輪場としても利用されている。  
	長久手古戦場野外活動施設(その他施設)	● 古戦場をイメージさせる施設である。  
	石碑 (公園名板 その2)	● 史跡地や古戦場公園の入口的な位置に設置されている。 

第4章 現状の課題

1 保存、活用の課題の整理

(1) 史跡の本質的価値に関すること

① 地形について

- 合戦時の地形はほぼ残されているものの、長年の風雨や踏圧等により土砂の流出が見られる箇所がある。また、整備された園路も老朽化し所々が地道化し、どこでも歩ける状態となっている。大型商業施設の開業等の影響で、より訪問者が多くなることが考えられ、どこでも歩けるという無秩序な史跡利用が進むと、遺構面に影響が出ることが考えられる。
- 実生から生長した樹木が多く見られ、地下遺構への影響が懸念される。

② 樹木について

- 史跡として保護されてきたため、樹木の間引きや剪定等があまり行われてこなかった。本史跡の特徴である、緩やかではあるが複雑な地形や景観などが視認しにくくなっている。
- 全体的に樹木が繁茂し、安定した雑木林的植生が維持されているものの、史跡景観上や利用者の安全性などに配慮する必要がある。

③ 石碑等（明和の碑、明治の碑、それを囲む石櫓など）

- 石碑周りの樹木が成長しすぎること、その根茎が石碑に与える影響が懸念される。
- 石碑を囲む石櫓は、コンクリートや接着剤による補修痕が見られる。コンクリートの補修痕やコンクリート基礎がむき出しの状態は、史跡景観としてはふさわしくない。
- 石碑周りに実生から成長したと思われる樹木が多くあることや、植えられた樹木が成長しすぎて石碑本体が見えにくくなっている。
- 石碑本体に目立った損傷は見られないが、花崗岩製である石櫓は劣化が進んできている。

④ 埋蔵文化財（推定）

- これまで埋蔵文化財調査は行われてこなかったが、土砂の流出や無秩序な利用などは遺構保全面からは解消する必要がある。

(2) 保存・活用に関すること

① 既存施設について

- 昭和 62 年に散策路やベンチの整備が行われたが、それぞれ老朽化が進んできている。

(3) 管理上調整が必要な要素に関すること

① 看板類について

- 石碑周りには解説板、標柱、QRコード付案内板が設けられているが、現在の表示方法では子供などが理解できるものとなっていない。またそれぞれが近辺に接してあり煩雑さを感じる。
- 史跡としてのメイン入口がないこともあるが、史跡全体の案内や説明する案内板が隣接する「長久手市郷土資料室」内にしかない。屋外にも必要と思われる。

② 隣接地の施設「古戦場公園」との関係について

- 史跡のガイダンス機能としては隣接する古戦場公園内の「長久手市郷土資料室」が役割を果たしているが、施設としての老朽化や手狭さ等から充実した役割を担いきれていない。
- 現在の利用形態を見ると、郷土資料室からスタートし史跡内の見学が中心となっているが、史跡内へのアクセスがスムーズにできないなどの土地利用上の改善すべき点がある。

③ 植栽・樹木について

- 多く植えられたソメイヨシノは、本史跡の特徴の一つでもあるが、合戦時にはなかった植物である。ソメイヨシノは、山桜等在来種に比べ寿命が短く病気になりやすいという傾向がある。計画地内のソメイヨシノも老木化が進んでおり、突然の落枝や倒木する可能性もある。
- 外来種や園芸種も見られ、古戦場としての景観にはふさわしくない。

④ 市所有の未指定地について

- 市所有の未指定地は、来訪者にとっては史跡内と感じられるものであり、地形や植生など史跡内と同じ環境にある。将来的には追加指定をするなど史跡との一体化が望まれる。

2 整備課題の整理

整備は、保全のために行う整備と、活用のために行う整備とに分けられる。

① 保全のための整備課題

- 石碑や石柱など既存石造物への周辺樹木の根茎や落枝等による損傷などが懸念される。
- 繁茂した樹木が、合戦当時の地形や雰囲気を感じさせなくしている。
- 周辺の急激な都市化による来訪者の増加が想定され、無秩序な利用による地形や樹木等に与える影響が考えられる。
- 市所有の未指定地は公團的な利用がされている。本来は古戦場として一体的なものであり、指定地として保存を図っていくなどの検討が必要である。

② 活用のための整備課題

- 本史跡のような古戦場は、石垣等を擁する城郭遺構とは異なり分かり難い面がある。それを補完しているのが隣接して設けられている「長久手市郷土資料室」であるが、その資料室も老朽化や手狭さなどがあり、十分なガイダンス機能を果たしきれていない。また、展示内容、手法、魅力の向上が求められている。
- 舗装材が老朽化し、わかりにくくなった園路が、無秩序な史跡利用を進めている面がある。史跡保護や樹木保護の観点からも、再整備が必要である。再整備にあたっては隣接する「古戦場公園」も視野に入れた利用動線の見直し、整備を進めていかなければならない。
- 現在の利用形態である「長久手市郷土資料室」を見学してから史跡を散策するというルートは今後も変わらないと考えられる。「古戦場公園」を含んだ全体がわかる案内板や道標等のサイン設備が不足している。

3. 運営体制の課題

現在「長久手古戦場」の管理運営は、長久手市が「古戦場公園」と一体的に行っている。史跡内の管理内容は主として樹木管理であり、ソメイヨシノやマツなどの剪定、草刈などである。史跡に関しては、昭和58年に設立された「長久手市郷土史研究会」がボランティア活動の一環とし、長久手古戦場に関係する市内の史跡や名所をガイドしている。

「長久手古戦場」は、「古戦場公園」と土地利用や施設の内容・機能面から密接な関わりがあり、管理運営も市が一体的に行っている。今後もより連携を高め、適切な細やかな管理や運営を進めていく必要がある一方、史跡の保存活用のためには市民等の協力も不可欠であるため、その関わり方等も検討していく必要もある。

第5章 保存管理の基本方針

1 保存管理の基本方針

(1) 史跡の本質的価値を守り、その価値が損なわれることのないよう、適切な管理を行う。

「国指定史跡の指定事由」を十分認識し、地形の改変や雑木林的樹林景観を保全するため、現状変更を最小限に留めると共に、指定地の追加指定も視野に入れ、今に残る「合戦当時に近い環境―雑木林的丘陵地形」の保存・再生を行う。

(2) 史跡保存の観点に立った利用動線等の見直しを行い、無秩序な利用がないようにする。

周辺環境の変化にともない訪問者の増加が予測される。遺構保存の観点に立ち無秩序な利用がなされないよう、計画的に園路やサインを設け遺構の保全に努める。

(3) 隣接する「古戦場公園」との一体的な保全を図る。

本史跡への来訪者は、本史跡と「古戦場公園」とは一体的なものと捉えている。公園も長久手合戦を意識して整備されたものであり、その点では指定地と同様に「国指定史跡の指定事由」を認識する必要がある。そのことから、公園は指定地の価値を補完する役割を担うと考え、景観上においても合戦場であった雰囲気醸成する必要がある。

2 保存管理の方法

(1) 保存管理の方法

① 石碑などの石造物の保存について

- 石碑直近の樹木は、根茎等の影響が石造物に及ばないように伐採や剪定等適切な管理を行う。
- 石碑周辺に繁殖した樹木は、庭園的な細やかな樹木管理により、石碑を含む塚全体の見通しを確保する。
- 石碑を囲むように設けられた石櫓は、経年劣化が見られ（一部はコンクリート等で補修済み）、石材の保護が必要となってきた。含浸性強化材による石材の強化や、破損した部分へはエポキシ系接着剤を用いた接合、欠損部やコンクリート補修部は擬岩化するなどの対策を行う。また、コンクリートがむき出しの基礎についても同様、擬岩化するなど、史跡と調和のとれた修景を行う。

② 樹木の管理について

- 既存植生については適正な管理により保存を図り、園芸種や外来種等については、伐採を行う。但し、ソメイヨシノについては長年地域の人たちに親しまれた木であることから、病巣の除去や枯枝の除去等など現状維持をしていくが、枯損した場合

は新たな植栽は行なわない。また、植栽を行う必要がある場合は、ヤマザクラなどの合戦当時に近い環境の創出を促す在来種とする。

- 古戦場としての本質的な価値として捉えられる地形、石碑などの石造物への見通しが確保できるよう、伐採や間引き等を行うなどの樹木管理を行う。
- 繁茂した樹木は、下枝を払うなど見通しをよくすることで、防犯面に配慮した樹木管理を行う。

③ 既存構造物の管理について

- 老朽化した園路は、古戦場としての雰囲気や現況植生に配慮して、既存園路の再整備を基本とする。「古戦場公園」との回遊性を高めたものとする。
- 史跡内にある解説板は、ステンレス製で歴史的景観との調和が取れておらず、表示も文字のみで物足りなさがある。「古戦場公園」や他の関連史跡との統一したデザインとし、表示方法も改善する。

(2) 現状変更等の取扱い

① 現状を変更する行為

現状変更等の許可申請の対象となる行為

「文化財保護法」(以下「法」という)第125条第1項の規定に基づくもので、以下のように定められている。

- (現状変更等の制限及び原状回復の命令) 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

② 現状変更等の内容

ア 現状を変更する行為

現状を変更する行為とは、現状の物理的変更を伴う全ての行為のことであり以下のようなものがある。

- a. 発掘調査等学術調査
- b. 建築物・工作物の新築や設置・改築や改修・除却など
- c. 土地の掘削、切土・盛土等土地の形状変更
- d. 樹木の伐採・植栽

また、災害・事故等でき損が生じた際に応急的かつ緊急的に復旧を行う場合は、「き損届」(「法」第118条)や「復旧届」(「法」第127条)を文化庁長官に届け出なければならない。なお、き損以前の状態に復旧する行為以外に改善等の措置を含めて工事を行う場合は、現状変更の対象となる。

イ 保存に影響を及ぼす行為

物理的に現状に変更を及ぼす行為ではないが、史跡保護の観点から見て将来にわたり支障を及ぼす行為をいう。

③ 現状変更等の取扱いの原則

史跡の適正な保護のために、史跡指定地においては、発掘調査等学術調査、史跡の保存管理及び整備活用上必要なもの以外の現状変更等は認めないことを原則とする。

④ 現状変更等の許可が不要な行為

「法」第125条にはただし書きがあり、以下のようなものについては、許可不要行為とされている。

ア 維持の措置

イ 非常災害のために必要な応急措置

ウ 保存に影響を及ぼす行為で影響の軽微なもの

エ 維持管理

アについて

- 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請に関する規則（昭和26年7月13日文化財保護委員会規則第10号）第4条（維持の措置の範囲）に措置の範囲が定められている。

⑤ 現状変更等に関する手続きの流れ



図- 現状変更等に関する手続きの流れ

関連法令

- 1.文化財保護法（昭和25年5月30日法律第214号）
- 2.特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請等に関する規則（昭和26年7月13日文化財保護委員会規則第10号）
（最終改正：平成27年12月21日文部科学省令第36号）
- 3.文化財保護法施行令（昭和50年9月9日政令第267号）
- 4.文化財保護法施行令第5条第4項第1号イからリまでに掲げる史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可の事務の処理基準（平成27年12月21日文部科学省令第36号）
- 5.記念物に係る現状変更の事務処理方法の変更について（平成23年4月1日記念物課長通知 23財記念第5号）
- 6.文化財保護法施行令及び地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律施行令の一部を改正する政令（平成27年12月16日政令第418号）

申請・届出の手続きの区分と根拠

行 為	申請・届出の手続き	区 分	根拠となる法律等
現状変更	現状変更許可申請	国許可	法第125条(現状変更等の制限及び原状回復の命令)
き損に伴う復旧	き損・復旧届	市許可	法第125条、法第184条(都道府県又は市の教育委員会が処理する事務)、令第5条(都道府県又は市の教育委員会が処理する事務)
維持管理の措置	不必要	—	規則第4条(維持管理の範囲)

※法とは「文化財保護法」、令とは「文化財保護法施行令」、規則とは「特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請等に関する規則」を示す。

⑤ 現状を変更する行為の取扱基準

【現状変更の許可申請の対象となる行為】

現状変更の許可申請の対象となる具体的な行為は、以下のものとする。

ア 発掘調査等各種学術調査のために必要な行為

- 現在発掘調査の予定はないが、必要になった場合は地形や石碑等の保存を前提とし必要最小限にとどめる。

イ 史跡の保存管理や整備活用上必要な行為

- 盛土、掘削、切土等の土地の形状変更。但し、降雨等による軽微な表土の流出が発生した場合の原状復旧は、「維持の措置」として許可が不要な行為とする。
- 工作物の設置や改修、除却
- 木竹の植栽

【現状変更等の許可が不要な行為】（法第125条のただし書きにある許可不要行為）

現状変更等の許可が不要な行為は、「維持の措置」「非常災害のために必要な応急処置」「維持管理」とする。

ア 「維持の措置」

- 維持の処置とは、石碑周りの石垣の石が数石転落した場合の石材の原位置への据え直し、石櫓の部分的補修や取替えが該当する。但し、石櫓の全周取替えなどの本格的補修は含まない。
- 枯枝の伐枝、枯損木の伐採や腐朽防止剤の塗布。また、松くい虫等病害虫に罹患した植物の伐採、除去、被害の拡大を防止するための周辺植物・土壌の除去、入れ替え等
- 降雨等による軽微な土砂の流出等が発生した場合の原状復旧
- 道路沿いの斜面部分で小規模崩落が生じた際の盛土による原状復旧

イ 「非常災害のために必要な応急処置」

- 大雨時の斜面崩壊箇所への災害拡大防止のための土嚢の設置や簡易な土留め杭・立ち入り禁止看板等の仮設工作物の設置

ウ 「保存に影響を及ぼす行為で影響の軽微なもの」

- 石碑等の石造物の拓本とりなど。但し、軽微なもので判断が難しいものは、県教育委員会と事前協議を行うものとする。
- 樹木の伐採（危険木・実生木以外の伐採）、及び植栽の際に掘削された範囲を超えない範囲で行われる樹木の植え替え

エ 「維持管理」

- 史跡内の清掃や除草
- 支障木の枝の除去、危険木や枯損木、枯枝の除去
- 樹木の施肥、刈込、剪定
- 解説板等看板の内容変更、破損部の取替え、塗装の塗り直し等の補修

下表の現状変更等の取扱いを行うこととする。

表- 現状変更等取り扱い基準

現状変更の種類		取扱い	許可区分
発掘調査	保存活用のための発掘調査	史跡の保存活用に資する場合、地下の遺構に影響を最小限にとどめる範囲で認める。	文化庁長官 (法第125条)
史跡整備	史跡整備に伴う工事 (国庫補助事業等)	史跡の保存活用に資する場合、地下の遺構に影響を与えない範囲で認める。	文化庁長官 (法第125条)
地 形	土地の形状変更	盛土や掘削、切土など地形の形状変更は、原則として認めない。但し、保存活用上必要で、史跡の本質的価値の保全に大きく影響を及ぼさないものは認める。	文化庁長官 (法第125条)
建築物	新規建築物	原則として認めない。	—
工作物 (土地の形状 変更を伴う 場合)	設置(新設) 改 修	盛土や掘削、切土など地形の形状変更は、原則として認めない。但し、保存活用上必要で、史跡の本質的価値の保全に大きく影響を及ぼさないものは認める。	文化庁長官 (法第125条)
工作物 (土地の形状 変更を伴な わない場合)	設置(新設) 改 修 (設置の日から50年を経過 していないものに限る)	史跡の保存活用に資する場合、地下の遺構に影響を与えない範囲で認める。	長久手市 教育委員会 (令第5条第4項 ハ)
管理に必要な 施設	説明板、柵、境界標 標識など	史跡の保存活用に資する場合、地下の遺構に影響を与えない必要最小限の範囲で認める。	長久手市 教育委員会 (令第5条第4項 ニ)
埋設物等	電柱、電線、ガス管、 水管、下水道管他 (舗装、集水溝等を含む)	史跡の保存活用に資する場合、地下の遺構に影響を与えない必要最小限の範囲で認める。	長久手市 教育委員会 (令第5条第4項 ホ)
樹 木 植 栽	樹木の伐採・伐根等	史跡の保存活用に資する場合、地下の遺構に影響を与えない範囲で認める。	長久手市 教育委員会 (令第5条第4項 ヘ)
	植 栽	原則として認めない。但し、史跡の保存活用に資する場合、地下の遺構に影響を与えない範囲で認める。(史跡整備を行う場合は文化庁長官の許可を得る)	長久手市 教育委員会 (法第125条)
	日常的な管理に関 わる樹木の枝打ち、 除草等	許可不要。必要に応じて実施する。	— (法第125条)

※法とは「文化財保護法」、令とは「文化財保護法施行令」を示す。

(3) 追加指定について

市所有の未指定地（武蔵塚 203、206）は、史跡指定当初に地権者の違いによって未指定となったのかは不明だが、指定地に接していることや車道で囲まれているという現状から、当該未指定地についても指定地と同様に評価できると考える。

史跡の保存と適切な整備活用を図るため、当該未指定地は現在の土地利用の現状等を踏まえ、積極的に追加指定を行うなどの方策をとる。

3 活用の方法

(1) まちづくり計画等の中での活用方法

長久手市においては「第5次長久手市総合計画」の主要プロジェクトの一つである「リニモテラス構想」をはじめとした計画等があるなかで、「長久手古戦場」や「古戦場公園」との連携がうたわれ、歴史文化を継承し、郷土の歴史を学び親しむ場として再整備を行うとされている。本史跡を含むリニモ長久手古戦場駅一帯は、多くの人が集う広域集客、交流拠点となっていくことが期待されている。

また、織田信長亡き後、天下取りを目指す羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康が戦った「小牧・長久手の戦い」の古戦場であり、秀吉と家康がたった一度直接対決した場所でもある知名度を活かした、市の観光拠点としての活用も望まれている。

- 現在計画が進行中の「古戦場公園再整備基本計画」との調整を図り、史跡長久手古戦場としての本質的価値を損なうことのないような、一体的活用を図る。
- 史跡長久手古戦場の歴史的価値を活かし、市の観光拠点の一つとしての活用を図るために、「古戦場公園」の持つガイドンス機能や、休養機能などの役割を明確化し、公園部分も含んだ歴史的環境、景観の創造に努める。
- 長久手市には、「小牧・長久手の戦い」「長久手合戦」に関する文化財、史跡が市内各所に数多くある。それらの施設との一体的な利用を進める。

(2) 学校教育、社会教育等の中での活用方法

上記で述べた「リニモテラス構想」では、駅周辺を「世代を超えた交流を図る」場所としての計画が進められている。長久手古戦場に隣接する「古戦場公園」のガイドンス機能の充実化を図ることで、小学校を中心とした学校教育の中での利用や近年増えている歴史愛好家などの多様な来訪者が、史跡の価値を正確に知り、理解を深めていく場所として、長久手古戦場との一体的な活用を進めることが望まれる。

4 管理運営の方法

史跡長久手古戦場の本質的価値を構成する地形や植生、石碑などを、保存管理・活用する上で有効な要素を適切に維持していくことが最も重要なことである。

史跡長久手古戦場は、合戦後も地域住民等により大切に保護されてきたという、長年に渡る保護の歴史を持つ。現在は市による管理が中心にはなっているが、市民ボランティアによる「長久手合戦」に係る市内史跡や歴史名所の案内が行われるなど、行政と市民が一体となった協働も進められている。また、長久手古戦場に隣接する「古戦場公園」では、公園内の施設の運営等について意見を聞くための委員会が設けられている。

一方、長久手古戦場に目を向けると、老朽化した園路が無秩序な利用の要因になっていること、繁茂しすぎた樹木が古戦場としての特徴である地形をわかりにくくしていること、劣化が見られる石槽などの石造物があるなど、保存管理面でも改善すべき点があり、その対応も必要となってきた。また、長久手古戦場を含む一帯が市の新たなまちの「顔」として重要な位置づけがされるなど、重要な場所となっている。

このような状況を踏まえ、今後、史跡長久手古戦場の本質的価値等を適切に保存管理し、活用していく上では、現在の管理部署である市生涯学習課だけではなく、他の関係部署との連絡調整・連携を充実していくことが必要である。また、指導・助言を行う専門的機関として、委員会などを組織することも検討していく。

引き続き、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室の協力を得て、文化庁の指導を受けながら、貴重な歴史資源を適切に保存し、確実に継承していくとともに、市の新たな観光拠点としての活用を図っていく。

また、史跡の保存活用には地元住民をはじめとする市民等の協力も不可欠であることから、今後はより連携を深め、協力体制を高めていく必要がある。



図一 管理運営体制の組織図（案）